



財団法人 まちづくり市民財団

まち towns!

Vol. 19

2009年度事業報告



設立趣意書

東西の経済的、社会的融合とグローバルな活動が重視される21世紀社会の形成に向けて、地球的規模で市民・市民団体自らが考え、自ら実践する社会基盤を形成することが急務になっていきます。このことはまさに生活者・消費者を主人公とする社会システムを形成するものであります。

このような時代にあつては、行政でも特定の利益代表でもない市民が自らの手で地域の将来ビジョンを築き、行政に民間の経営マインドを注入し、市民の主導によって、先見性と夢のある計画作りを行うことが求められています。また、行政の縦割りを越えて利用者の立場にたった施策を提案し、さらに各自がその実現に向かって努力するというこの意義は極めて大きいものと思われまふ。地域社会の活力を維持する為には豊かな想像力と企業家精神、そして既存の価値観にとらわれない心は欠かせません。

以上のような考えから青年経済人として私たちは広く地域社会の将来を見通し、社会に貢献するための仕組みとして、財団法人“まちづくり市民財団”を設立いたします。

財団法人まちづくり市民財団寄附行為（抜粋）

（目的）

第3条 財団は、市民が主体的に行う地域振興、地域活性化をまちづくりとしてとらえ、まちづくりに関する研究・提案を行い、また、まちづくりの為の市民の諸活動への助成を行う等により、地域の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

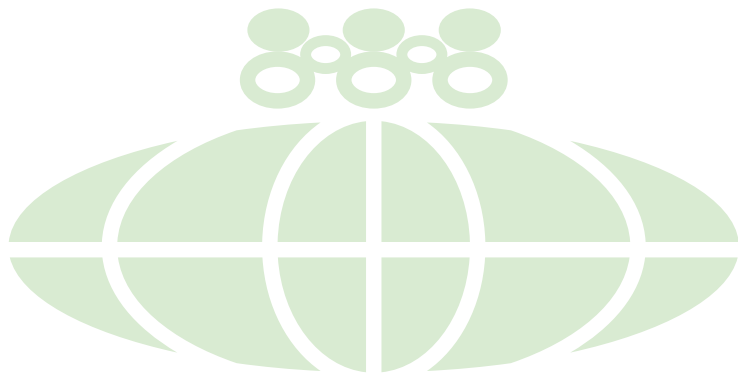
第4条 財団は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) まちづくりに関する総合的・学術的な調査研究
- (2) まちづくりに関する情報及び人材リストの収集活動
- (3) まちづくりに関する情報提供活動
- (4) まちづくりに関する研究者交流活動
- (5) まちづくりに関する研究及び事業に対する助成
- (6) その他財団の目的達成に必要な事業

目次

- 02 設立趣意書
- 02 財団法人まちづくり市民財団寄附行為（抜粋）
- 03 財団法人まちづくり市民財団とは？
- 03 理事長挨拶
- 04 2009年度「まちづくり人」応援助成金選考委員のコメント
- 05 2009年度「まちづくり人」応援助成金交付地・助成金一覧
- 06 2009年度「まちづくり人」応援助成金対象事業紹介（中間報告）
- 14 2006～2008年度助成金事業一覧
- 16 共同研究事業一覧
- 17 共同研究事業紹介
- 22 まちづくり共同研究事業勉強会 報告
- 22 緊急災害援助事業
- 23 「まちづくり応援人募集」ご入会・ご寄付のお願い
- 24 2010年度「まちづくり人」応援助成金募集要項

財団法人 まちづくり市民財団 とは？



まちづくり市民財団は、
パートナーシップによるまちづくりを基本理念に
「市民がまちづくりを行いやすい環境づくり」と、
「それに取り組む人たちの応援」をする財団で、
日本青年会議所が、より社会への貢献を目指し
創立40周年を期して設立したものです。

地域の小さな循環を紡ぐ
〜これからのまちづくり市民財団の役割〜



財団法人

まちづくり市民財団

理事長 米谷 啓和

これまで19年間、まちづくり市民財団は助成事業を中心に広くまちづくり全般にわたって活動してきました。そして阪神淡路大震災やそれを受けたNPO法の成立も手伝って、NPOや市民団体が自立して活動できる日本社会の形成に向かう一助をなしてきました。それは同時に、行政や企業をはじめ多くの助成団体の誕生をうながし、ひいては先駆者としての当財団の助成のあり方自体を見つめ直すことにもつながっています。また超低金利時代が続く中、公益法人制度の改革も進められ、財団の限られた財源をどう効果的に生かしていくかを見定める転機も迎えています。

そのためには、地球の大气・水・エネルギー・堆積と風化といった大きな循環を基盤として、自治・環境・食・交通・文化などふだんの暮らしの地域の小さな循環がスムーズに回っていることが必要です。

具体的には、

- ・ 家族をつなぐ
- ・ 地域の共同体をつなぐ
- ・ 自然の循環をつなぐ
- ・ 食の循環をつなぐ
- ・ 歴史と自分をつなぐ
- ・ 地域の伝統文化をつなぐ
- ・ 再生可能なエネルギーで暮らす
- ・ 化石燃料を使わずに移動する

といった活動のテーマが浮かび上がります。

地域の小さな循環を紡ぐ…このことを新たに財団のビジョンに掲げ、実績のある助成金事業をひとつの柱として、新たな政策研究・研究交流事業に取り組むことで、地域に学び、地域を支え、そして地域を変えていく「小さな環」ともに紡いでいきたいと願っています。

〈未来世代へと手渡していける持続可能な地域をどう創っていくか〉…わたしはこのことがいまのわたしたち責任世代の最大の課題と考えています。

人々とのつながり、人と地域とのつながり、人と自然とのつながり、歴史や伝統とのつながり、未来とのつながり…ほころびつつあるこうした身の回りの小さな循環をひとつひとつ紡ぎ直していくことこそが、わたしたちが真っ先に取り組んでいくべき課題です。

2009年度「まちづくり人」応援助成金のご報告

2009年度「まちづくり人」助成金には、全国各地より264件の応募を頂きまして、誠にありがとうございました。

ご応募を頂きました申請書に記載されている内容は、いずれも市民が主体的になつて、多くの協力者を募り積極的に地域の活性化を図るご苦労が積み出た申請書の内容であり、各地で活躍されている「まちづくり人」の皆様の熱意は、審査員の先生方にも強く伝わってくるご応募が多く寄せられていました。

まちづくり活動やNPO運動等が市民に根付き、市民が主導的な立場で積極的に地域に貢献している事が実感できる応募内容が多く、「まちづくり人」助成金事業の関係者としては、市民活動が本格的に日本全国に根付き活性化してきたと感じました。

本年度は「まちづくり人」助成金に応募を頂きました264件の中より、「まちづくり人」として17件を認定させて頂き助成を執行させて頂きました。

助成先選定にあたりましては、申請を頂きました書類や参考資料、ホームページ等で活動内容を確認させて頂いた後に、まちづくり市民財団の担当者より、電話にて申請者の方へ詳細な活動内容や活動の経緯・背景までをヒヤリングをさせて頂き、申請内容を正確に把握した後に、助成選考委員会の先生方による選考会を開催させて頂きました。

選考委員による選考では、地方経済の疲弊に伴って発生している問題や、全国各地で共通に発生している課題まで、地域の特色や風土を活用して問題や課題を解決を図る取組等を、様々な視点での議論を重ねた頂いた後に17件の申請が選出されました。

審査において選出された17件に対しては、まちづくり市民財団の担当者から現地に赴き「まちづくり人」の皆様と直接お逢いして、申請内容や事業・運動の詳細と共に「まちづくり人」助成金の申請に至った経緯や、地域の抱えている問題・まちづくりを取組む意識や解決手法等を共有し、選考委員会で先生方の御意見をお伝えするなど、まちづくり市民財団と継続的に情報交換が可能となるよう、十分にお話を伺った後に「まちづくり人」助成金の申請者として認定させて頂きました。

264件の応募を頂いた申請内容は、全て優秀が付け難い申請である事は例年と同様でしたが、ご応募された地域の抱える問題に対しての緊急性や必要性、今後の事業や運動の継続性や発展性等を中心として、選考過程で議論がなされ助成先として認定されていますので、17件の中間報告書や認定者・団体のホームページ等で活動をご覧頂ければ、今後の皆様のまちづくり活動の一助にもなると考えられますので是非ご覧下さい。

「まちづくり人」応援助成事業

担当理事 美和健一郎

「まちづくり人」応援助成金 選考委員の「コメント」



「まちづくり人」応援助成事業選考委員

まちづくり市民財団理事

檜 貢

本州の最北端の津軽平野を見下ろす山がある。津軽・弘前に住む人津軽・弘前を訪れる人をひきつけてやまない単独峰の岩木山である。この山が津軽・弘前の魅力と個性の骨格をなしている。そんな山の麓の一部地域がリゾート開発の対象となった。スキー場を中心とした観光開発が構想された。このすばらしい場所ならたくさんのお客が来ると、多くの遊び客が来るに違いない。そうすることで、それまでの薪を拾い、炭を焼いて細々とした暮らしから地元の人たちが抜け出すことができるようになった。40年も前のことである。

日本中の多くの地域で、顔の見えない人、ひと旗あげたい人に貴重な場所を売り渡した。それまでの貧しい暮らしから脱却して、豊かになれる。地域の住民が自由になれる。そう考えた末の判断だった。だが、ギャンブルのようなことは成功裏に終わることは少ない。

岩木山のリゾート用地はすでに自然が回復し、その場所からつわも

のどもの面影も消えつつある。最近、岩木山を愛する市民や地元住民がその土地をどのように生かすかを考える機会に出会った。そこそこだわりをもつ人、そこに生き続けようとする人。彼らが立ち上がった。その場所に未来につながる「資源調査」をすると思っている。こだわりをもつ人とそこに生き続けようとする人がその土地での自分を取り戻しつつある。意識の中でも、その場所が地域社会に戻ってきている。地域再生はここから始まる。顔の見えない人たちに委ねた地域開発から地域そのものを取り戻し、人々の普通の生活になぎ直していく地道な作業を現代の地域再生とよびたい。

さて、この応援助成金は「人」に着目している。まちづくりの理念とそれを具体化する人。場所の力、社会の動き、人のつながりを読み解きながら、小さくても未来につながる社会を創ろうとしている人に注目している。そのパーソナリティやリーダーシップを応援する。それが

まちづくり人応援助成金助成審査の理念である。そのために、まちづくり市民財団の応援助成金担当者は情報を集める。申請された書類を読み解くは当たり前で、個別の電話連絡等によってその裏をとる。われわれの審査の後、現地に赴いて間違いがないか確かめる。私の知る限りこんなに申請周辺で人が動く助成金決定過程はない。

それはまちづくり市民財団への思いの大きさからである。基礎をなしている「C」活動は市民の活動であつて、すべて自前主義である。自前の時間、自前の資金を使って所属するそれぞれの地域の社会開発運動を行ってきた。それらを全国のまちづくり運動のうねりにつないだ。そこから生まれた資金を原資とする助成金をまちづくり人応援に投じようとしているのである。その資金も底が見えるほど少なくなつていくと聞く。地域再生の時代。市民が本気になつて地域を変える時代。こうした応援助成の意義と役割は大きい。

まちづくり人応援助成金助成審査の理念である。そのために、まちづくり市民財団の応援助成金担当者は情報を集める。申請された書類を読み解くは当たり前で、個別の電話連絡等によってその裏をとる。われわれの審査の後、現地に赴いて間違いがないか確かめる。私の知る限りこんなに申請周辺で人が動く助成金決定過程はない。

応援助成金交付地

応募対象

- A : 小さな循環をつなぐ仕組み創り
- B 1 : 環境活動：環境保全やエコ運動を推進する、まちづくり活動をする人を応援します。
- B 2 : 啓蒙活動：NPOや組織づくりを通じて、まちづくり活動を提唱・実践する人を応援します。
- B 3 : 交流活動：世代間交流を活発にする活動や運動等を通じて、まちづくり活動をする人を応援します。
- B 4 : 活性化活動：地域の商工業を活性化する活動を通じて、まちづくり活動をする人を応援します。
- B 5 : 文化活動：地域の歴史や文化、芸術活動の推進を通じてまちづくり活動をする人を応援します。
- B 6 : 福祉活動：地域福祉の増進を図る活動を通じてまちづくり活動をする人を応援します。



2009年度「まちづくり人」応援助成金交付先一覧表

合計助成金額 5,940,000円

団体名	事業名称	助成金額	都道府県	対象項目
1 社団法人 鹿児島青年会議所	日食祭（鹿児島コスモフェスタ 2009）	200,000	鹿児島県	B 2
2 特定非営利活動法人 コドモ・ワカモノまち ing	移動式子ども基地による「まちの縁結び」	500,000	東京都	A
3 特定非営利活動法人 弘前子どもコミュニティ・ぴーぶる	『子どもを真ん中においた日』市民力による中心商店街賑わいづくり事業	500,000	青森県	A
4 大枝アートプロジェクト実行委員会	大枝 05 みどりの停留所～ニシヤマアートブックプロジェクト～	250,000	京都府	B 5
5 チームごじゃっぺ	地域の文化遺産を活用した「つくば」と「筑波」の地域間・世代間交流プロジェクト	300,000	茨城県	A
6 はるころ企画	つなげて発見！田舎の恵み「はるころマーケット」	300,000	北海道	A
7 つく net.	不登校・ひきこもり、発達障害者の人達による保護犬のパートナー・ドッグ育成事業	500,000	宮城県	A
8 特定非営利活動法人 あなたの街の「三河や」さん	「笑顔があふれる街づくり」	300,000	宮城県	B 6
9 社団法人 由利本荘青年会議所	「由利本荘にかほ 10 万人セールス大作戦」	500,000	秋田県	A
10 特定非営利活動法人 ワーカーズコープ 東久留米地域センター事業所	ベッタウンからホームタウンへ「畑作り」がつなぐ「まちづくり」の輪	440,000	東京都	B 4
11 特定非営利活動法人 よこはま里山研究所 NORA	街のなかにある土間「はまどま」がつなぐ地域コミュニティ	500,000	神奈川県	A
12 特定非営利活動法人 かごしま GIFT	2009 皆既日食記念・世界天文年 時の芸術祭	200,000	鹿児島県	B 6
13 天羽英雄	中心市街地勝手に応援志隊	250,000	徳島県	A
14 北はりま地域づくり応援団	2009 どんぐりっこあつまれ どんぐりっ子の森 事業	250,000	兵庫県	B 4
15 特定非営利活動法人 せき・まちづくり NPO ぶうめらん	遺したい、関の職人業『IDEN～遺伝～』プロジェクト	300,000	岐阜県	B 5
16 特定非営利活動法人 一隅舎	幼老統合サポート事業	500,000	宮城県	B 1
17 歌劇団あもれ座	歌劇団あもれ座第 2 回公演オペラ《ドン・ジョヴァンニ》	150,000	埼玉県	B 5

1 社団法人
鹿児島青年会議所

日食祭 (鹿児島コスモフェスタ2009)

事業実施期間

2009年7月

事業実施場所

ウォーターフロントパーク (鹿児島市本港新町)

共催、後援、協力団体

共催：2009皆既日食鹿児島実行委員会

協力：鹿児島カップ火山めぐりヨットレース実行委員会・南日本リビング新聞社・南日本新聞社・

南日本放送

動員対象者人数

3日間延べ約10000人

ペットボトルロケットコンテスト・科学実験体験：約350人

ステージイベント・フリーマーケット・出店：約900人

トークセッション・ミニコンサート：約250人

日食観測会：約8500人

7月20日～7月22日の期間で「日食」を活用したフェスティバル形式のイベントとして、「日食」という自然界のイベントを一過性のものでなく、記憶に残る科学的感動体験の共有を図りました。

ペットボトルロケットコンテスト・科学

実験体験で児童の自然現象や歴史を含む科学に対する興味を持ってもらうきっかけづくり、次世代育成の一助となるようにしました。

ステージイベント・フリーマーケット・出店を行なうことでより幅広い層の市民・観光客の参加を図りました。

トークセッション・ミニコンサートでは「日食」への機運を高めると共に「宇宙」のまち「鹿児島」というアイデンティティの確立を認識していただけるようにしました。

合同日食観測会では小学生を中心に多くの市民を招いて「日食」の解説を交えて観測することにより、安全且つ効果的に感動体験を共有しました。また当日の天候が芳しくは無かったものの、逆に薄曇りの影響で日食メガネを使用せずとも肉眼でも欠けていく日食の様子を観測できる時間帯があ

り、より感動を深めることができました。その結果、昨今の理科離れの解消の一助として理科教育に興味を持ってもらうことができ、鹿児島の宇宙科学・産業への関わりを認識していただいて積極化するきっかけとなったと考えます。



2 特定非営利活動法人
コドモ・ワカモノまちing

移動式子ども基地による「まちの縁結び」

事業実施期間

2009年4月～9月

事業実施場所

千代田区、文京区、台東区、渋谷区、千葉市、横浜市

(道路、公園、お寺、イベント会場など)

共催、後援、協力団体

こども環境学会、東京都社会福祉協議会、千代田区

社会福祉協議会、千代田観光協会、魁！神田塾、た

ねっこ(自主保育サークル)、子どもと一緒にデザイン

しよう会、でんでんむし、HELPUS、ユメラボ、スタ

ジオ子ども×まちデザイン、日大・明治・芸大・電

機大・法政・東大・共立女子大・千葉大・横浜市立大な

どの学生、NPO法人チキンファクトリー (渋谷区)、

千代田区の小中学校、実施場所の町会・商店街、特別

協賛企業2社、各イベント実行委員会 等

動員対象者人数

・参加者 30～200名/回 (主に幼児・小学生) 計

約3000人

・移動式子ども基地の出動回数25回

(4月5回、5月5回、6月1回、7月7回、8月5回、9月2回)

1.5tのトラックを改造した「移動式子ども基地」、様々なモノを搭載して、空き地や公園、路地やお寺、イベント会場に現れ、子どもと遊び・学ぶ「現代版の紙芝居屋」を実施しました。移動できることでまち全体を舞台に、搭載するモノと場所・人の組合せによって、地域性やテーマに合わせて様々なプログラムを実施しました。そして、子どもとまちの人・文化・自然・知恵とのご縁を育てています。

移動式子ども基地に搭載したモノ

50種類以上の道具を組み合わせ、無限の遊び&学びを生みだしています。

昔遊び系(こま・メンコ・けん玉・お手玉・ビー玉・ヨーヨー・コリントゲーム・つみき など)、音遊び系(世界の打楽器(約10種類)、木片楽器、竹楽器、創作楽器など)、体感系(わらじ、さき織、切り株(木、竹)、フラフープ、ホッピング、リングビーなど)、工作系(大工道具、パッチキット、写真プリンター、折り紙、絵本づくり、段ボール、木片、紙片、箱など)、空間デザイン系(竹(2.5M)、テント、ロープ、巨大ブランコ、ハンモック、布など)、青空教室系(黒板、紙芝居&絵本、プロジェクター、スクリーンなど)、オリジナル遊び(巨大福笑い、巨大パズル、立体パズル、巨大すごろくなど)、その他(防災カードゲーム、園芸道具、理科実験道具、畳、ゴザ、机など)

プログラム

平日の放課後は、幼稚園・小学校界隈の広場や道・公園(事前に区や警察などに許可)に遊びを前し、プレイリーダーと共に様々な創作遊びを実施しました。また、休日は子どもが参加するイベントと連携して、移動式子ども基地を出動し、様々なワークショップを実施しました。

■まち遊び

路上らくがき大会、竹楽器、各種昔遊び、巨大迷路づくり、コリントゲーム、紋切り遊び、防災遊び、布遊び、紐遊び、創作遊具づくり、人間カーリングなど。

■まち学習

地域の人や文化が教材。まちの語り部によるまち歴史講座、文化体験交流教室、我が町の防災・防犯学

習、まち探検など。

■青空教室

アーティストや職人、専門家などと青空教室を開催。ものづくり教室、環境デザイン教室、体操ワークショップ、子育て教室など。

感育プレイリーダー育成

さらに、子どもの活動、まちづくり活動をしている学生団体とネットワークを構築し、感育(=五感を使って、感動・感性・感謝の心を育む)プレイリーダーの育成を目的に「人材育成セミナー」を実施しました。リスクマネジメント講座、冒険遊び場研修、子どもの遊びとリーダーの役割講座、プロジェクトアドベンチャー実習などを行いました。

今後は、より子どもたちが安全・安心してまち遊びできる居場所をつくるため、学生だけでなく地元のママ・パパおよび高齢者の子育てネットワークを構築していきたいとします。「移動式子ども基地」のメディア掲載情報(2009年4月～)

■ラジオ日本「ザ・ホットライン」生出演4月2日

「なつかしの昔あそび」

■リクルートアントレネット4月「子どもと、まちを有機的に結び付けるNPO」

■フジテレビFNNスーパーニュース4月18日「まちに遊び場をつくる」

■テレビ東京『すなっぷ』6月3日(水)

■『VERY』7月号6月7日(日)

■『食農教育』6月20日(土)

■KANDA/ルネッサンス 6月25日(木)

3 特定非営利活動法人

弘前子どもコミュニティ・ぴーぷる

『子どもを真ん中に置いた日』 市民力による中心商店街賑わいづくり事業



事業実施期間

2009年4月～2010年3月

事業実施場所

第1回 弘前市百石町（弘前市中心商店街）

第2回 弘前市百石町（弘前市中心商店街）

第3回 弘前市土手町（弘前市中心商店街）

共催、後援、協力団体

あおり木製玩具研究会・あおり公共デザイン研究会

百石町振興会・土手町商店街振興組合

動員対象者人数

第1回『子どもを真ん中に置いた日』

7月24日百石町夜店祭 手づくりくじと手づくりおもちゃのワークショップ：動員対象者数約200名

第2回『子どもを真ん中に置いた日』

8月21日子どもたちのものづくりワークショップ：動員対象者数10名

第3回『子どもを真ん中に置いた日』

9月13日カルチャロードうづくり積み木のワークショップ：動員対象者数約300名

〈活動の目的〉

弘前市は地方都市特有のロードサイド店の出店が増加し、中心商店街では商店の減少率が大きく空き地や空き店舗が目立ってきています。この弘前市中心商店街の空き店舗、商店の軒先、街なかの公園等を利用し、毎月一回『子どもを真ん中に置いた日』として各催事を開催し、街なかで子どもとその保護者、地域市民が文化に触れる機会をつくり、人と人が関わり合いながらまちづくりを考え、子どもと市民力をキーワードに中心商店街を軸としたコミュニティの醸成と賑わいの創出を図ることを目的

に活動をおこなっています。

〈現状報告〉

事業実施にあたって、地域市民、商店街関係者、当NPOメンバーによる運営委員会を立ち上げ、活動のキーワードとなる子ども市民力を根底に押しさえ、「地域全体で子ども成長を喜びあえる空間」を街なかにも求め賑わいの創出を図ることを共有、実施内容、実施日の検討をおこないました。

第1回目の開催については、弘前市の中心商店街であり大正時代より続いている百石町納涼祭に参加し「地域の結びつき」を図る取り組みとし、市民ボランティアによる子ども向けの「手づくりのくじ引き出店と、身近なものを活用した手づくりおもちゃのワークショップ」を開催することとしました。

当日は、午後6時の狼煙の合図と共に、商店街の空き店舗の一角を借りた市民ボランティアの作ったくじ引き店と手づくりおもちゃのワークショップがオープンし、子ども達を中心に約200名の参加がありました。

第2回目は、平日の実施とし、あえて日中の街なかにも子ども達を呼び込む仕掛けづくりとして「ものづくりおもちゃのワークショップ」を市民ボランティアにより開催しました。会場は前回と同じく百石町の空き店舗を借り、日中の街なかにも子どもの笑い声が響く異空間の設置を試みました。わずか10坪の小さな空間ですが、参加5組（10名）の親子の賑わいが、普段は人通りの少ない商店街に響き渡っていました。

第3回目として、市民同士の交流と地域文化の認識を深めてもらうことを目的に弘前市の路上文化

祭と呼ばれているカルチャロードに参加し、市民力で子どもとその保護者、地域市民が文化に触れる機会をつくり出すことを目標に「うづくり積み木のワークショップ」を開催しました。積み木は青森県産杉の間伐材を使用したもので、地産地消、地球温暖化防止、森林保護などを呼びかけると共に、子どもとその保護者、地域市民が一体となって積み木を使い作品づくりをおこないました。

〈今後の活動予定〉

10月度 街なか読み聞かせ～親子で街なかワークショップ～

11月度 子どもがつくるフラッグ～街なか集うえがお～親子でまちづくりワークショップ

12月度 街なかでお買い物上手～街なか子ども学習会～親子でまちづくりワークショップ

1月度 童心に帰る～街なかかた～賑わい創出街なかワークショップ

2月度 童心に帰る～みんなで作るミニかまくら～

3月度 童心に返る～懐かしの遊び広場～賑わい創出街なかワークショップ

〈今後の課題〉

市民ボランティア、一般市民の参加により概ね順調に活動がスタートできましたが、商店街における商業者の関わり合いが少なく、中心商店街活性化という問題をどのようにして商業者側に提起できるかが大きな課題と捉えています。今後地域市民、活動参加ボランティア、商業者を交え、賑わい創出を図るためのワークショップを重ねていきます。

4 大枝アートプロジェクト実行委員会

大枝05 みどりの停留所 ～ニシヤマアートブックプロジェクト～



事業実施期間

2009年4月～2010年3月

事業実施場所

京都府京都市西京区（大枝～大原野地域）

共催、後援、協力団体

協力団体・組織：京都市立芸術大学、ガリ版伝承館、西京区まち・ひと・情報データバンクにしきょうネット、Neo西山文化プロジェクト、大原野神社、春日乃茶屋、アサヒ・アート・フェスティバル実行委員会/ネットワーク

協力/後援：柿ハウス、建築工房大五、ツキデ工務店、松尾園芸、NPO法人あんじゅ-癒しの森-

動員対象者人数

のべ500人

高速道路建設計画によって風景と共に変化している人々の思いや生活。大枝アートプロジェクト(以下OAP)は、その変化に寄り添いながら、その環境を芸術的資源として芸術表現の新たな可能性を探り、様々な活動を展開してきました。これまでの活動を通して生まれた風景と人との交流、地域の方の語るお話と視点、そこにみえる様々な地域の姿。そして、それによって磨かれてきたメンバーの視点や感性。それらはなかなか形となって見えにくいものですが、残し、次へとつなげていかなければならない大事なことです。

そこで2009年春から始まったのが「ニシヤマアートブックプロジェクト」。OAPの視点から構成された、新しい「本」を目指しています。

本作りに関しての基本方針は「今までの活動とこれからの活動を連動させる」「本作りを通じてより深く地域と自分たちの活動を見つめる」「興味を持った誰もが参加できる」の3つです。OAP初期からのメンバーである水口菜津子を「編集長 兼 停留所維持係」として現在も編集会議や取材を重ねています。内容の充実と考証を重ねるべく3年ぐらい時間をかけて制作する予定です。

【2009年春夏期のOAPの主な事業】

◎にしやまの音楽会in大原野…大原野神社境内で開催される自然の中での野外音楽会。参加費無料ですが、鑑賞者に椅子を持参していただき境内の好きな場所で音楽と風景を楽しんでもらう「マイいすプロジェクト」を実施。今年は4/26に「木管の春」を開催(5/23「金管の光」は。残念ながら新型インフルエンザの影響により中止)。6/21鎮守の森フェスタ、9/13大原野神社祭ナイトコンサートにもゲスト出演。この秋10/25には一般公募で集まった様々な世代の参加者も加えての開催予定です。

◎誘蛾灯けいかく…かつて地域の風物詩として親しまれ、夕方になると子供たちが火をつけてまわったという誘蛾灯。その情景はとて美しく幻想的で、今も地域の方の心に残っています。「誘蛾灯けいかく」は、誘蛾灯の再生を目指し、語り合う「けいかく」です。今回

は試作と試験点灯の会を9/5に設け、実験的に誘蛾灯の炎の光で絵を描く試みもされました。地域の風物詩を復活させ、その時間と場所を共有することで、様々な世代間地域間の交流の機会となりました。来年への「けいかく」へとつながっていきます。

◎ガリ版刷「月刊みどりの停留所新聞」&ガリ版合宿…活動初期からガリ版印刷を利用してチラシや新聞などを発行しています。月刊みどりの停留所新聞は、地域から記者を募り、地域の歴史や文化などについて寄稿いただいています。もちろん四コマ漫画もあり！そして、ガリ版を通してつながった東近江市のガリ版伝承館でガリ版合宿も開催しました。

◎ほかの主な事業(4/19「峠の茶屋」お披露目茶会、4/29大枝トコトコ散歩、6/12一日限りのガリ版のお店、8/10大五さんをつくる「みどりの停留所」ワークショップ、8/22地藏盆ミニ映画会、など)…今年も例年通り多彩な活動を展開しています。どの企画も地域と対話する中から自然発生的に生まれてきたものです。特に今年は、大原野に住む宮大工の大五さんの人間力に惹かれ、大五さんをきっかけに様々な人や物事がつながっているように思います。この秋にも「みどりの停留所」をコンセプトとして、展覧会や音楽会など多彩な活動を展開していきます。

5 チームごじゃっぺ

地域の文化遺産を活用した
「つくば」と「筑波」の地域間・世代間交流
プロジェクト

事業実施期間

申請時：2009年4月～7月

→採択結果および助成金の交付が事業終了日の直前となってしまったため、一部の事業（邸宅の修繕等）の予定を変更し、現在も事業は継続中です。

事業実施場所

つくば市北条地域および地域内に残存する昭和初期に建てられた近代和風住宅「旧矢中邸」

共催、後援、協力団体

北条街づくり振興会

矢中の社

動員対象者人数

(1)旧矢中邸の保存活用事業（邸宅修繕、見学会の実施）

学生約25人、地域住民7人、社会人10人、見学会参加者約60人

(2)祇園祭における山車引き体験および屋台村事業

学生約10人、社会人10人、山車引き体験参加者12人（内子ども4人、留学生2人）、屋台村参加子ども約10人

1. 4月より、邸宅所有者と学生、地域住民が協力して、週1、2回のペースで旧矢中邸の清掃、修繕事業に取り組んでいる。昭和初期の家財道具が残る邸宅内では、それらの道具を使ったことのない若者が地域住民に使い方や歴史を教えてもらう場面なども見受けられ、世代間交流のきっかけとなっている。また、地域の職人によって、無償で畳が張り替えられるなど、多くの人のポ

ランティアの下に、少しずつではあるが、邸宅が甦ってきている。7月末に開催される地域の祭事である「祇園祭」では、2日間限定の一般公開も企画し、延べ60名近くの見学者が邸宅を訪れ、好評を博した。なお、邸宅および庭園の清掃活動は引き続き行っており、現在は今後の保存活用事業に向けて、検討中である。

2. 「祇園祭」の山車引きに、つくば市の研究学園地区の住民が参加する機会を設けることによって、「筑波」に残る伝統文化を体験してもらおうと同時に、学園住民と地域住民との交流を図った。当日は親子連れだけでなく、留学生も一緒に参加したため、地域間交流のみならず、国際交流にもつながった。猛暑日で、体力的にも厳しい状況であったにもかかわらず、参加者からは大変好評で、また来年も参加したいという声も聞くことができた。また、旧矢中邸の庭園では2基の屋台を並べて、飲み物や駄菓子を提供したり、BBQを行ったり、庭園の竹を利用して本格的な流しそめん会を開催するなど、地域の子もたち、学生、大人が一緒になって楽しい時間を過ごした。



祇園祭山車引き体験中の留学生



一般見学会の様子

6 はるころ企画

つなげて発見！
田舎の恵み「はるころマーケット」

事業実施期間

2009年8月

事業実施場所

北海道十勝郡下川町錦町 はるころカフェ

共催、後援、協力団体

下川町消費者協会、下川町商工会（八の市）、商工会青年部

NPOしもかわ観光協会、NPO森の生活、若シユフの会

動員対象者人数

200人（2日間延べ来場者人数）

地元の神社祭にあわせて、子供から大人まで幅広い世代の人が、田舎でつながる交流の場づくりをしました。その中で、地方と都市、食と環境、森林と人、農家と消費者をつないで、小さい町だからこそできる異業種間のつながりによる幅広いネットワーク作りをめざして、田舎の人達が元気に暮らせるしくみ作りを目標に開催しました。

「はるころマーケット」当日は、晴天でたくさんの方が夏祭を楽しんだ2日間でした。準備期間から含め、2ヶ月間の間にふだんとちがう、出会い、ふれあい、気づきがたくさんできたとともに、新たな課題もみつきり、意義のあるマーケットとなりました。

① 当日の活動内容は以下の通りです。
② 売らない野菜マーケットでは、地元の農家さんが作った規格外で出荷できない野菜を中心に直売しました。また、若い主婦が先輩主婦に調理方法を聞いたり、対面販売を通しての交流で主婦の知恵の伝授と、これだけでも有意義な場所になったと思

ます。仕入れ、販売を手伝ってくれた“オヤジの会”（行政マン）の面々も地域のひととの交流が深まったようです。

② 地域食材の屋台では、地元の食材を使った商品開発も含め、下川の食パンとアイスクリームを組み合わせた「アイスパン」を販売しました。気軽にテイクアウトできて、食べられると好評でした。

③ コミュニティカフェでは、地元のお年寄りにワンコインランチを提供しました。お料理好きの主婦の働く場所としてのワンディカフェをめざしています。ふだんひとり食が多いおばあちゃん達は会話と地元野菜のカレーセットを楽しんでいってくれたようです。

④ リサイクルマーケットでは、地元の“若シユフの会”が中心となって、家庭での不用品、子供用品、本や雑貨などリサイクルすることによって環境の負荷をおさえようと、リサイクル情報の受信発信をしてくれました。マイバッグ推進として、家庭で不要になったバッグを回収、町の商店に設置、買い物客に無料で貸し出す「シモカバ」（しもかわ貸しカバ）のしくみもできました。マーケットでは、子連れのお客さんとの交流も生まれ、にぎやかなブースになっていました。

⑤ エコロジーコーナーでは、消費者協会が廃食油で作ったリサイクル石鹸の無料配布、古布・廃食油回収と、環境モデル都市下川町として、住民ができる“うちエコ”を紹介する冊子の配布をしました。環境に対する意識改革のきっかけとなりました。

⑥ ガーデン紙芝居は、昔ながらの紙芝居の再現をしようと、紙芝居おじさんが子供達に水あめせんべいを配って、青空の下で開きました。幼児から、おじいちゃん、おばあちゃんまで、紙芝居の世界にひきこまれていました。定期的に紙芝居や絵本の読み聞かせの要望の声も聞き、今後の活動も広がりそうです。

⑦ 森の生活コーナーでは、NPO森の生活のスタッフや大学生ボランティアが中心になって、フェアトレードの紹介、地元の森から採取したモミの芳香蒸留水を使ったフットバス体験、アロマ商品の紹介など人間と森がつながる癒しの空間になっていました。

⑧ ガーデンスローライブは、オープンガーデンを会場に夏の夜を楽しもうと、たくさんの方が来てくれました。ライブでは、地元出身のフォークデュオ「笑科書」、町内在住の歌姫AKKOのステージで、音楽とお酒で大人の時間を満喫してもらうことができました。スタッフも、お祭気分を盛り上げようと浴衣に着替え、華やかなガーデンライブになりました。

⑨ ガラガラクジつきゲームでは、小学生を対象に事前に「はるころ怪盗団」からの指令書を配布。当日は、会場に隠されたヒントを子供達が次々と訪れました。怪盗団に扮したスタッフと子供との掛け合いがおもしろくて、とっても笑えました。見事、クリアした子供達はガラガラクジを引いて、景品をもらったり、お祭気分を味わってもらえたと思います。



7 つくnet.

不登校・ひきこもり、発達障害者の人達による保護犬のパートナー・ドッグ育成事業



事業実施期間

2009年7月～9月

事業実施場所

仙台市内

共催、後援、協力団体

仙台市動物管理センター、動物救護里親の会、レスキュードッグ、エンジェルアイズ、ブルーローズ、ぱすけつと会、心や

動員対象者人数

ミュージュアル・フレンド・プログラム

1. ひきこもり当事者 10名
2. 動物保護および愛護に関する活動団体 3団体（実働30名程度）
3. ひきこもりに関する支援団体 3団体（実働8名）
4. 一般市民 100名～
5. 学校教育・支援機関 8団体（参加者10名程度）

つくnet. は、その目的であります障がい者、不登校・ひきこもりの支援を基盤として、地域社会に貢献できる取組みに対して積極的に実施してまいりました。

このたびは、不登校・ひきこもり、発達障害者の人達による保護犬のパートナー・ドッグ育成事業の一環として、「ミュージュアル・フレンド・プログラム」と称して、ひきこもりの悩みを抱えた人達が保護犬のお世話と訓練を通して、人間と動物の福祉を図るためのプログラムを実施しました。プログラムの活動概要は、次のとおりです。

1. ひきこもりへの理解に関する広報・普及

活動

一般市民に対して、ひきこもりへの理解と、人間心理に与える動物の好影響を知ってもらうことを目的として実施しました。

・8月に仙台市動物管理センターにおいて、一般市民を対象に講演会を開催しました。「不登校・ひきこもりと動物介在活動」をテーマにした講演会には、80名程度の一般市民が参加してくれました。第一部は、ひきこもりの現状と今後の課題について講義が行なわれ、第二部は、動物介在の効果と検証について事例発表が行なわれました。今までの『動物介在』をテーマにした講演会では、10名程度の参加人数でしたが、今回は80名程度の一般市民が参加してくれました。

また、9月には学校教育・支援機関の方々を対象に、公共施設において同テーマで講演会を開催しました。こちらも50名という予定人数を上回る参加状況でした。どちらも、関心の高さがうかがえる講演会となりました。

2. 動物愛護への理解に関する活動

利用者の動物に関する知識の習得、および動物愛護のマナー向上を目的として実施しました。

・ひきこもり当事者5名（うち精神障害者2名）で9月の動物愛護週間にちなんだ講演会に参加しました。ペットロスに関するテ

ーマで、ペットが人間の心へもたらす影響について学びました。

3. 保護犬のお世話活動

第1期は、保護犬とのコミュニケーション方法を学ぶこと、他団体との親交を深めることを目的として実施しました。

・9月の動物愛護週間にちなんだイベントに参加しました。仙台北法人会が主催する「オンリーわんフェスタ」というイベントで、愛犬家のマナー向上と、盲導犬や補助犬、災害救助犬の活動の普及を主な目的としたイベントです。6ブース10団体が参加しました。私たちは動物愛護ブースで、ひきこもり当事者3名とともに参加させていただき、活動のお手伝いをしました。主に、保護犬のお世話（散歩、遊び相手）と、ピラ配り、活動ブースへ訪れた人達への説明を行ないました。

4. 保護犬のしつけ活動

犬の訓練に必要な基本を学ぶ目的で実施しました。

・ひきこもり当事者5名で、動物学校の学生を招いて、犬とのコミュニケーション方法やしつけの基本に関する勉強会を犬の訓練センターで実施しました。

以上、ひきこもり当事者と、保護犬との良い関係作りを重点を置いた活動期間となりました。

8 特定非営利活動法人

あなたの街の「三河や」さん

「笑顔があふれる街づくり」



事業実施期間

2009年4月～2010年3月

事業実施場所

宮城県仙台市太白区長町

共催、後援、協力団体

長町商店街連合会・長町まざらйн

動員対象者人数

8月2日 ながまち夏祭り開催、参加者約8000人
9月1日 多機能型就労移行施設ふるたいむⅡ「おいしいパン屋」開店
現在とっておきの音楽祭に向け長町商店街を巻き込み似顔絵で街興し中

①8月2日「ながまち夏祭り」を開催、8000人地域住民が参加されました。

②9月1日には多機能型就労移行施設ふるたいむⅡ「おいしいパン屋」を開店、喫茶機能も備え、地域の方々の憩いの場所となっております。

夏まつりでは12000人を目標に昼夜、休日問わずに、活動してきました。

人・物・金の三拍子の不足を知恵と、身体と動きでカバーしました。

広報は、お金を掛けずに新聞やラジオ、テレビなどのパブリシティにお願いしました。ポスターやチラシは徹夜で手作りし、深夜に会場周囲の杭に貼って回り歩行者や、車両にアピールをしました。

照明は地域の日本カッター様にアボ無で飛び込み、テントはコミュニティセンターや消

防署、商店街や商工会から、テーブルは電線会社様から木製のケーブルドラムを頂、椅子は酒のやまや様からビールのケースを椅子代わりにプロパンガスや五徳などはラーメン屋さんから無償でお借りすることが出来ました。

運送会社様からは安価でのガルウイングのトラックをお借りしてステージにしました。

その他の資材も地域の方々から無償提供して頂きました。

ボランティアさんとともに、地域をお願いに回ることによって、人と人が繋がっていくことが出来ました。

後5年は使用できない草原の中の水も電気も無い公園で8000人の方が来場され、出店者や、企画運営に関わってくださった方、ボランティアさん、などを加えると10000人は下りません。「三河や」は地域の方々に小さなお手伝いを提供している小さな団体だけれどもこんなにも多くの方々に支えられていることを再認識し、感謝しております。

これから市立病院が建設されるまで6000平米の公園が雑草に囲まれ5年間使用できません。

この公園が地域住民に認知してもらい、縁日や地場産品、ワークショップや、演奏、ダンス、吉川団十郎氏の公演は歌まで歌っていただき、食べて、学んで、歌って、踊って楽しんで頂きました。

結果は目標動員には届きませんでしたが、もっと早くから知っていたら手伝えたのに…、楽しかったから来年も絶対行ってくださいね!! 等嬉しいお言葉をたくさん頂きました。

車イスだったり自転車だったり、犬の散歩途中だったり、気さくに、「ぶらっ」と来て、見て、楽しんで、小さな輪から大きな輪へ繋がっていく!!が手に取るようにわかりました。

スローガンとしている～独りから一人へ…そして二人へ～と会場内のあちらこちらで井戸端会議が繰り広げられました。

その日限りのお祭りだけではなく、長町3丁目に就労移行でパン屋をオープンさせ、パンの製造販売に留まらず、交流スペースとして開放しています。

また、10月10日開催の「とっておきの音楽祭～in長町」に向け「おいしいパン屋」さんを会場に提供し、「長町商店街」を三河やオリジナルの似顔絵をアイテムに長町商店街連合会と共同で～笑顔あふれる街づくり～を行っております。

笑顔がたくさん増殖中！～独りから一人へ…そして二人へ!!～！

井戸端会議を開きながら皆さんの御用聞きとして、これからも感謝の心をこめて活動して参ります。

皆さん一度「長町」に遊びにきてください!! みんな笑顔で楽しめますよ!!

9 社団法人
由利本荘青年会議所

「由利本荘にかほ10万人セールス大作戦」

事業実施期間

2009年4月～11月

事業実施場所

由利本荘市・にかほ市

共催、後援、協力団体

後援

由利本荘市、にかほ市、秋田県由利地域振興局、公立学校法人、秋田県立大学システム科学技術学部、由利本荘市教育委員会、にかほ市教育委員会、秋田県教育委員会、由利本荘市商工会、にかほ市商工会、由利本荘市観光協会、社団法人にかほ市観光協会、秋田しんせい農業協同組合、子吉川水系漁業協同組合、本荘由利森林組合、社団法人由利本荘市シルバー人材センター、秋田魁新報社、NHK秋田放送局、AKT秋田テレビ、ABS秋田放送、AAB秋田朝日放送、エフエム秋田

動員対象者人数

28,000名（由利本荘市、にかほ市の中学生・オープニングイベント開催時における来場者数）

由利本荘・にかほ10万人セールス大作戦

「郷土の魅力PRコンテスト」

- ・キャラクター部門
- ・プレゼン部門

本会で企画・運営をする菖蒲カーニバル（7月31日開催、24回目）において、本事業のオープニングイベントを開催し、審査員（下記）の方々、また特別応援団である地元出身タレント加藤夏希さんから応援メッセージを来場者（約20,000人）に上映し、本事業の趣旨・

目的を広めました。由利本荘市及びにかほ市の小学生・中学生・（約8,000名）には再度、募集要項や作品例などが記載された募集用紙を作成・配布し作品の募集を働きかけを行いました。主に小学生にはキャラクター部門の募集を、中学生にはプレゼン部門の募集を働きかけましたが、授業単位で取り組んで頂いた学校などもあり、現在約250通の応募作品を頂いております。

近日、予備審査会を開催し応募作品の絞り込み、その後本審査会を開催致します。採点方法をテーマ・デザイン・インパクト・PRカクオリティー・ユーモアなどの項目とし、大賞・優秀賞・審査員特別賞などの選定を行います。

参加者の方々が作品を応募するにあたり、地元の食材や文化などをもっとよく知る為に様々な事を調べ、作品を完成させていくという過程も本事業の「市民のセールスマン化」という目的を含んでおり、応募作品の数以上の成果を挙げていると思われま。

今後は、優秀作品をはじめとし、応募頂いた作品を有効活用するため、HPの他、各種イベント、秋田県のアンテナショップなどで広く紹介し、また、今回得られた情報は「市民セールス手帳」として編集し、市民が故郷

を紹介する際の「虎の巻」として活用できるよう進めて参りたいと思います

※審査員

- ・阿曾 達治氏 リストランテA S O 料理長
- ・植村 徹氏 株式会社東北新社
代表取締役副社長
- ・森本 登志男氏 マイクロソフト株式会社
シニアディレクター
- ・渡邊 竜一氏 地域映画祭プロデューサー
- ・長谷部 誠氏 由利本荘市長
- ・横山 忠長氏 にかほ市長

※特別応援団

- ・加藤夏希さん 由利本荘出身タレント



10 特定非営利活動法人

ワーカーズコープ 東久留米地域センター事業所

ベットタウンからホームタウンへ 「畑作り」がつなぐ「まちづくり」の輪

事業実施期間

2009年7月

事業実施場所

東久留米市南部地域センター

共催、後援、協力団体

ひばり保育園・南中青少年健全育成協議会・東久留米市環境市民会議くらし部会・老後もいきいき安心！塾サポーター・NPO法人くるめ一歩の会

動員対象者人数

核になるサポーター 10名
地域の子どもたち・高齢者 20～25名

【活動内容】

東久留米市はベットタウンとして宅地化が進み、昭和30年～40年年代にはひばりが丘団地、滝山団地などのいくつものマンモス団地が建設されました。その反面、いまだに農家が健在し、農家数295戸、農地面積195ha（平成17年現在）を有しています。団地に在住されている会社勤めからリタイアされたシニア世代の方々と生産者の方々とつなぐ「畑作り講座」を企画いたしました。畑作りには元気なシニア世代の方々に核になっていただき、地域の子どもたちや体力の衰えを感じている高齢者も参加できる体制にしていきます。畑を分割してそれぞれで作るのではなく、生産者の方のご指導のもとで、体力のない方々をフォローしながら協同での野菜作りで地域交

流・多世代交流を図ります。みんなで作って、みんなで収穫し、みんなで会食することで子供達の食育の場となり、生産者の方との交流ができることで地産地消の促進が図れます。

まずは周辺地域の生産者の方々にヒアリングを行い、協力いただける方を探し、サポーターを募り、協同で企画、準備を進め、近隣の小学校や保育園に参加の呼びかけをしています。

【現状報告】

実際に動き出してみると協力いただける生産者を探すことが非常に困難であることが判明しました。地元の方から私達のような地元出身でない者が突然農家を訪問しても、受け入れてくれないだろうから地元の人に仲介してもらった方がいいとのアドバイスをいただき、地域の様々な団体に相談しました。どの団体も「地域交流の畑作り」には賛同して下さるものの、協力いただける生産者の方を紹介するのは難しいとの回答でした。高齢の生産者の方々は新しい試みにチャレンジするのは躊躇されるし、若い生産者の方々は人数も少なく、多忙を極めているため協力したくてもできない状況であろうとのことでした。

10月になっても協力いただける生産者が見

つかず、せっかくいただいた助成金もお返しして企画を断念しようと考えていた矢先、近隣の保育園の紹介で協力いただける生産者の方がやっと見つかりました！高齢の女性の方で、地域の方たちとの協働での畑作りに理解を示してくださいました。

冬野菜から始めるには準備期間が足りないため、来年の夏野菜から始めることになりました。

以上のような経緯でこのプロジェクトはようやく動き始めました。この間に様々な団体に相談したことで、農業でまちづくりを考えていらっしゃる方々の貴重なご意見を伺うことができました。せっかくながつながった方々との協働にこだわりながら、3月からの本格的な野菜作りを目標に準備を進めています。



11 特定非営利活動法人
よこはま里山研究所NORA

街の中にある土間…「はまどま」が つなぐ、地域コミュニティ

事業実施期間

2009年4月～2010年3月

事業実施場所

「はまどま」 横浜市南区宿町2-40大和ビル119
NPO法人よこはま里山研究所NORA

共催、後援、協力団体

協力団体 NPO法人リロード・社会福祉法人たすけあいゆい・財団法人横浜市男女共同参画推進協会・藤田エコサロン・イタリアンレストランMarc

動員対象者人数

はまどまプロジェクトメンバー（運営委員・賛同者）16名

よこはま里山研究所NORA会員120名

プロジェクト参加者 年間延べ2,400人

**■地域・市内団体との共同・横浜開国博Y150への
出展の拠点に**

今年、横浜市で行われている、横浜港の開港150周年を記念する様々な行事の一つとして7月4日から9月27日まで開催された、横浜開国博Y150ヒルサイドエリア「つながりの森」の企画は、「市民創発プロジェクト」と題し、市民有志が集い創りあげたもので、180を超える様々な出展が行われ、NORAも「風の道プロジェクト」と題して、神奈川県内の竹林を整備しながら、竹材で「風ぐるま」を作るワークショップとNORAの活動紹介の出展を行いました。併せて開催期間を通して、約800個の風ぐるまを会場に展示しました。

「はまどま」は準備活動の拠点となり、半年以上、風ぐるまづくりをはじめとする各プロセスへの参加を募り、新たな仲間の輪が広がり、出展後は「竹細工」プロジェクトとして継続しています。

■「はまどま」での定例活動も順調に進めています。

32回を数える「神奈川野菜の食事会」は、毎回30名を超える参加者で交流を深めました。神奈川野菜の料理教室「旬の野菜食べ方知恵袋」絵画教室「野を描く」を毎月開催し、新しい仲間づくりにもつながっています。

**■改修作業に着手・調理設備を強化し内装を改装。
「土間」に近づける**

地域に役立つ活動をさらに積極的に行いながら、仲間の輪を広げていくことを目指した「はまどま」の改修作業は、改修作業の工程も固まり10月～11月には主要な工事ができる見通しとなりました。

●厨房委員会を設置して改修準備を進めました。

●改修案を作成し、「はまどま」運営委員会と協議しました。

●厨房設備を中心とする工事の見積りの結果、運営委員会の希望では予算が不足することがわかり再検討が必要になりました。

●改修機器の下見などを繰り返し、予算内で改修できる内容に修正しました。

●「はまどま」のある大和ビルのオーナーへの日頃の活動への協力の御礼あいさつと、改修へのご理解をお願いし、快諾をいただきました。

●今後の作業工程を作成しました。

■川井緑地の間伐材を利用して里山を感じられる空間にする

●間伐材を利用して厨房で使用カウンター、事務用テーブルを製作。Y150に出展した他団体の協力を得ることができました。

●改修工事の一部に使用する材にも間伐材を用いる予定です。



■改修後の「はまどま」にむけて・広報活動とコミュニケーション

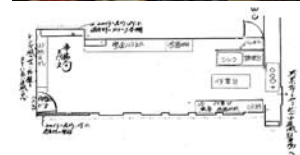
「はまどま」を利用し、場を開ける機会を増やすことで地域の皆さんとのコミュニケーションの機会も増えています。様々な活動への参加者を募ることで、新しい参加者も増えています。横浜開国博Y150をはじめ、市・区内の様々な活動に積極的に参加することで、新たな出会いと発想が生まれ、改修後の「はまどま」の可能性をおおいに広げるものとなっています。



改修作業前の「はまどま」の一角。風ぐるまづくりの様子。



「神奈川野菜の食事会」の様子。写真奥の厨房設備を改善し、収納設備や事務所の機能性を高め、使いやすいフリースペースにします。



「はまどま」改修プランです。

12 特定非営利活動法人
かごしまGIFT

2009 皆既日食記念・世界天文年 時の芸術祭

事業実施期間

2009年7月

事業実施場所

鹿児島市港湾部一帯
種子島全域

共催、後援、協力団体

鹿児島市部

共催：2009皆既日食鹿児島実行委員会、NPO法人文化芸術支援NPO PandA、鹿児島パフォーミングアーツ、桜島ビジターセンター、鹿児島市

後援：MBC、KTS、KKB、KYT、南日本新聞社

協力：宇宙航空研究開発機構（JAXA）

種子島部

主催：中種子島町商工会

協力：南種子島町商工会、西之表市商工会、JAXA、種子島観光協会、鹿児島市、鹿児島県、日本宇宙少年団

助成：中小企業庁地域資源∞全国展開プロジェクト

動員対象者人数

鹿児島市部

1. 鹿児島市内展示（7/18～7/26）	2万人
2. 皆既日食時イベント（新聞報道）	8000人
3. 皆既日食フォーラム	150人
種子島部	
1. 展示	計4500人
2. 皆既日食時イベント	3000人
	(JAXA種子島宇宙センター)
3. 皆既日食フォーラム	600人

鹿児島市部

①鹿児島市内の展示においては、日本一の乗降客数を誇る鹿児島市の港湾部において、島しょ部へ向かう船のターミナルや、生活航路の桜島フェリーターミナルなどで展示を行なった。



日本一の乗降客数を誇る鹿児島市港湾部が今回の皆既日食のトピックと重なる事で動員数も目標どおりのものとなった。

また、多くのアーティストの参加により多様な作品を展示することが出来、開催期間中に継続して桜島フェリー船内で行なったワークショップで制作された作品は現在も鹿児島市環境未来館に於いて継続展示され、今回の皆既日食を未来への記憶に残すという当初目的の一部として機能している。

②皆既日食時のイベントは2009皆既日食鹿児島実行委員会主催のイベント事業や南日本新聞社・MBC（TBS系列）による観測イベントと同時開催し、動員数は目標どおりのものとなった。しかし、野外ステージイベントは悪天候のため当初の見込みの動員は得られなかった。

③皆既日食フォーラムはコーディネーターに日比野克彦氏、パネラーに国連環境計画の末吉竹次郎氏、アーティストの藤浩志氏、2009皆既日食実行委員会会長で鹿児島大学教授の面高俊宏氏を迎え、桜島フェリーターミナルのホール（約150名）で行なわれた。皆既日食の感想を交えた内容で、当日はNHKの取材により、夕方のニュースで約5分間の時間枠で放送され、啓発事業として目標達成の一助になった。

種子島部

①種子島全体にわたり展示を行ない、1市2町の連携を構築した。西之表市では地元商工会青年部による連携イベントなども派生し、市民参加型のイベントとしても機能した。毎日のように開催されるイベントに、観光客から地元の住民

まで幅広く参加頂いた。特にゲストとして招聘したサッカー日本代表の岡田監督は種子島でサッカーを行なう少年達に大人気となり、また監督も少年達と積極的に交流いただいたことで皆既日食（天文）とアートを起点にさまざまな分野の興味を喚起しようという今回の事業の趣意を象徴的に具現化する場となった。また、若手のアーティストの多くが地元の方が提供してくれたレジデンスに滞在しながら作品制作を行なった事で市民レベルの交流を創出し、これを機会に今後も種子島でアートイベントが企画されるなど、皆既日食の記憶を将来につなげるといふ本事業の目的を達成する事にもなった。

②皆既日食当日はJAXA種子島宇宙センターにおいてワークショップやイベントを行ない、あいにくの悪天候で観測状況が悪い中、訪れた多くの観測者と共に皆既日食を楽しんだ。当日の様子はフジテレビの「めざましテレビ」でも中継されたほか、8/8付の朝日新聞日曜版において第1面を含む全30段に渡り紹介され、大きな発信となった。

③皆既日食フォーラムは中種子町の種子島コリーナ開館以来の動員となる満席の600名を数えた。NHK大河ドラマ「篤姫」の音楽でも知られる吉俣良氏のミニコンサートで始まり、吉俣氏に加えて毛利衛宇宙飛行士、サッカー日本代表の岡田監督、国連環境計画の末吉竹次郎氏をパネラーに迎え、日比野克彦氏によるコーディネートでフォーラムを開催した。皆既日食から広がる未来をテーマにした内容は多くの観客の共感呼び、地元放送局全局で報道されるなど大きな反響を呼んだ。

13 天羽英雄

中心市街地勝手に応援志隊

事業実施期間 2009年4月～2010年3月
事業実施場所 徳島市中心市街地
共催・後援・協力団体
 東新町商店街、商工会議所、建築士会
動員対象者人数
 阿波踊り期間中 寂聴うちわ無料配布 1200人
 夏休み親子釣り教室・釣り大会 50組
 路上ライブ 未定
 2009年8月12日～15日 南新町にて南新町振興会・町内会役員にて配布 1200枚
 瀬戸内寂聴さんもおいでくれました。
 2009年8月22日 夏休み親子釣り教室・釣り大会
 新町川 ふれあい橋北詰より新町橋までの間
 110人(うち子供67人)
 2009年9月2日～11月30日 ひょうたん島・つりダービー開催中
 2009年8月26日～2010年3月31日(できればずっと)
 東新町商店街 コルネの広場にて路上ライブ開催中
 徳島県知事 飯泉嘉門氏より、激励メールを頂く。

・南新町商店街 瀬戸内寂聴うちわ配布
 南新町商店街では、4年前より阿波踊りの観光客に対して、うちわを配布して参りました。天羽が南新町振興会・町内会の役員であることから、中心市街地勝手に応援志隊から、うちわ作成の補助をいたしました。8月12日には、瀬戸内寂聴さんも南新町において、二つ返事で受けていただきました。徳島新聞の「あどねっと」に広告を出しましたが、反応はひとつでした。その後、釣りだよりの記事や、情報と

くしまに記事として掲載していただいたところ、応募が殺到しました。当初50組の予定でしたが、当日飛び入り参加を含め、110人(うち子供67人)の多数の参加をいただいて盛況のうちに終わることができました。ふれあい橋から、新町橋までの間、釣り竿がずらっと並んだ光景は壮観なものがあり、通りかかりに人に尋ねられたり、徳島大学の矢部準教授からも「凄かったですね。」とメールを頂きました。この様子を多くの方にとっていただくために、「たかはし釣りタイムス」という新聞を創刊し、配布したところ、中心市街地のご真ん中で、こんな大きな魚が釣れるのかと多くの人が驚いていました。

中心市街地のご真ん中で釣りができる環境は日本広しといえども、徳島くらいではないかと思ひ、これを人の集まる集客システムにしてはどうかという考えが閃星となった結果でした。
 次に、「ひょうたん島・釣りダービー」と銘うって、新町川、助任川周辺で釣れた魚の釣りトーナメントを11月30日まで開催中です。今のところ出走は良くありません。あどねっとに広告を出しましたが、やはり記事にならないと広報が十分にできていないようです。
 高橋さんに情報とくしまに掲載できるよう手配をお願いしているところです。
 ・街に音楽をというコンセプトで、街中に音楽を流したいと思ひ、東新町商店街の役員の方たちに東新町商店街 コルネの広場で、路上ライブをやらせてもらえないか、お話をしたところ快諾して頂き許可を貰いました。そこでストリートミュージシャンに声をかけて、路上ライブをして貰えないか話をしたところ、快く受けていただき、路上ライブの企画が動き始めました。
 路上ライブをするにしても、何か看板のようなものがないと、本当に勝手にやっているように思われたいけないと思ひ看板を作ることにしました。知り合いの看板屋さん黒川勉強さんに話をしたところ、非常に感激していただいて、ボランティアで、材料代だけで看板を作ってくれることになりま



した。ひょうたん島・釣りダービーのマップや受付看板も作っていただきました。8月末より路上ライブを開始したところ、友人の直さんが、ボランティアで路上ミュージシャン募集のフライヤーを作ってください、配布していただきました。そうすると、そのフライヤーを見て、応募の電話があり、新しいメンバーが加わり、その次の週には、また新しく参加してくれる方が出てきました。

中心市街地勝手に応援志隊の活動状況を、いろいろな人にメールで送っていったところ、ある日、徳島県知事 飯泉嘉門さまより、路上ライブ激励のメールを頂きました。そこで、またもや「コルネの響き」新聞を創刊し、多くの方に配布いたしました。徳島県知事よりの激励メールの件は影響力が大きく、皆さん一様に驚かされていました。もっとも一番驚いたのは、私です。

路上ライブの様子は、私のブログアメブロ <http://ameblo.jp/sabskok/> や産経新聞のIZAブログ <http://sabskok.iza.ne.jp/blog/> に記事を書き、アメブロやYouTubeに動画を配信しました。最初はそうでもなかったのですが、最近では「中心市街地勝手に応援志隊」で検索すると多くの動画サイトで配信されています。音楽専門サイトでも配信されていたので驚いています。

先日の9月5日の土曜日には、私が企画していないにも関わらず、自然発生的にストリートミュージシャンが路上ライブをして、賑わっているのを見て驚きました。商店街連合会の青年部の人も驚いたそうです。やはり、何か事を起こしていくと波及するものがあるのかと思ひました。私としては、池に小さな石を投げ込むつもりでしたが、もしかしたら、そのような効果が出てくるのかも知れません。まだ始まったばかりですので、そう上手くいくとは限りませんが、街の動きも観察していきたいと思っています。

14 北はりま地域づくり応援団

2009 どんぐりっこあつまれ どんぐりっ子の森事業

事業実施期間 2009年4月～2010年3月
事業実施場所
 北はりま冒険あそび場(どんぐりっ子の森)
 兵庫県東加東市下久米字依藤野1227
共催・後援・協力団体
 後援: 北播磨県民局・(財)兵庫県青少年本部・(財)ひょうご環境創造協会・県立嬉野台生涯教育センター・北播磨地区子ども会連絡協議会・播磨東教育事務所・西脇市教育委員会・三木市教育委員会・小野市教育委員会・加西市教育委員会・加東市教育委員会・多可町教育委員会・明石市教育委員会・加古川市教育委員会・高砂市教育委員会・稲美町教育委員会・播磨町教育委員会・神戸新聞社
動員対象者人数
 どんぐりっ子大集合 幼児・小学生・高校生・大人18人
 キャンプ 小学生149人
 デイキャンプ 幼児・小学生・大人101人
 ファミリーキャンプ 幼児・小学生・大人19人
 森あそび34人
 「出前」どんぐりっ子の森あそび(9ヶ所)

【どんぐりっ子の森づくり】

北はりま冒険あそび場(どんぐりっ子の森)は2005年4月に開場して、5年目を迎える。開場以来、夏休みに「森のひみつを知ろう学習会」を通して、どんぐりっ子の森づくり・ホテルがとぶ森づくり・小川の生き物を探そう・ソーラーパネルの秘密を知ろう・森の木の生き方の秘密を探そう・樹木を知ろう・植物を知ろう、の各テーマで夏休みに10回実施170人の子ども達

が参加。学習会時に、この森にも稀少生物が多く居ることがわかり、生態系を壊さない取り組みに結びつく活動が出来た。

森の中を使った森の探検、スタンプラリー等で、子ども達が森の中を歩き回り、道が整備されて行く。薪を集めることで、間伐材・倒木の処理が進み、どんぐりっ子の森でエネルギーが賄え、自然体験活動・環境学習活動・森林保全活動が、スムーズに行なえている。

どんぐりっ子の森の活動を楽しみながら、自然体験活動と資源循環型の森づくりを参加者と共に進めて行く。又、1泊キャンプを通して、生きる力をつける。

- * 人とのつながりを創る…テントを建てる。(子ども達とスタッフ) 協力する事を学ぶ。
 - * 物を大切に…水・電気・ガス設備の無いところなので、資源(水)を大切に使うこと、限りある資源を使っていることを学ぶ。
 - * 自然を守る…持ってきた物は、持って帰る。自然の中に無かったものゴミは残さない。来た時と同じ森に返す。
 - * 群れあそび…子ども達に群れ遊びの楽しさを体験させ、あそびのルールを学ぶ。
 - * 「出来る」自信をつける…自分の力と仲間力で、キャンプを最後まで、楽しいものに作り上げる。
- 雨の時でも、止み間を狙ってテントを立て、



薪を集めてご飯を自分達の力で作る。

【エコエネルギーで資源循環型の森づくり】

「エコエネルギーって…?」が、子ども達にも目で見、触って感じる事が出来る様工夫。

水の循環システムをペットボトルを使い簡易ろ過器を作り水が綺麗になる過程を体験。炊事で出た排水は、簡易ろ過器を通して、自然に返す取り組みを、理解する。飲料水はポリタンク(10ℓ)を自分達で運び大切に水を使うことと、蛇口をひねれば水が出る有難さを身をもって知る。

昨年設置のソーラーパネルは、夜のゲーム大会、トイレ使用中関係なく、電気切れで、真っ暗に成る事もあり、エネルギーにも限りがあることを体験。ソーラー付ランタンで、昼間太陽エネルギーをうまく集めて、夜のテントの明かりに使用。

【「出前」どんぐりっ子の森あそび】

森あそびを体験していない子ども達に、森のあそびを体験してもらい森に来るきっかけ作りをする為に、森で集めたどんぐり・松ボックリ・木の実等でクラフトづくりを体験したり、森の活動を写真で紹介しながら、北播磨地域のイベント・祭り・学習会に出前しています。

4月～9月の間に9カ所を出前し、来年3月までに兵庫県下7ヶ所の地域に出前予定です。

15 特定非営利活動法人

せき・まちづくり NPO ぶうめらん

遺したい、関の職人業『IDEN〜遺伝〜』プロジェクト

事業実施期間 2009年4月～2010年3月

事業実施場所 岐阜県関市

共催、後援、協力団体 なし

動員対象者人数

関市民、関市の刃物職人、関の刃物メーカー

〈活動内容〉

岐阜県関市は、700年以上前より刃物の町として知られ、包丁、カミソリをはじめ多くの刃物製品で全国シェア1位となっています。この刃物産業を支えた原動力が分業体制といわれています。「研磨」する職人は「研磨」専門、「刃付け」する職人は「刃付け」専門など、工程ごとの専門技術を活かして大量生産を可能としてきました。現在、関市ではこのような職人の高齢化が深刻な問題となっています。しかし、現状は業界も行政も何も手を打ってはいません。職人、メーカー等にヒアリングの結果、この要因は「工賃の少なさ」、「消費者からの顔が見えず、流れ作業の一員になっている」ことがあげられると考えました。



こういった課題を受け、本事業では、職人に光を当て市民に職人の姿を伝えることで、この課題を浮き彫りにし、職人のイメージ向上を目指します。

〈現況報告〉

刃物職人の姿を伝える記事「遺伝」を連載しています。現在当団体で、関市民に関の魅力に関市の人に伝えるためのフリーマガジンを発行します（隔月1日、20,000部発行）。関市民でも知られていない職人の技術と仕事に対する想いを明らかにすることで、市民への長年刃物産業を支えてきた職人に対するイメージの意識啓発をしていきます。この9月までに8月号にて1名の職人の特集をし、10月号においても、さらに2名の職人の特集をしています。

◆8月号：金属彫刻職人「彫刻にしか出せない味わいがある」

パソコンに入力するだけで彫刻ができるレーザー彫刻機が増える中で、彫刻にしか出せない味わいがあると、奮闘されています。

◆10月号：①研磨職人「刃物をおしゃれに身につける」

②仕組み職人「誰もが使えておしゃれなはさみ」

16 特定非営利活動法人

一隅舎

幼老統合介護を目指して

事業実施期間 2009年6月～

事業実施場所 宮城県加美郡加美町

共催、後援、協力団体 なし

動員対象者人数

(1)現在のデイサービスの利用者数（実人数）20人

(2)月の延べ人数は約150人

(3)乳幼児及び小学生の来所数 述べ約60人

幼老統合介護に向けた第一歩

私たちが住む加美町は、高齢化率29%と県内有数の高齢化が進んだ地域です。この町のお年寄りや、そのご家族を支える人づくり、仕組みづくりに早急に取り組まなければならないの思いから、今年4月、13人の仲間と共に特定非営利活動法人一隅舎を設立しました。

早速、皆で資金を出し合い、2年ほど空き家になっていた病院の建物を借り上げ、リフォームの上、6月15日に「デイサービスくれよん（定員10人の小規模型）」を始めました。現在は平均で1日5～6人のお年寄りがご利用になっており、軌道に乗っております。スタッフとして常勤4人、非常勤6人が働いており、働く場の少ない地域での雇用の創

出にも、わずかではありますがお役に立たせていただいています。

スタッフ全員、「みんなちがって、みんないい」を合言葉に、互いの違いを認め合い、尊重しながら、利用者さんの立場に立つて接するよう心がけています。通い始めた頃は、無口で表情の暗かったお年寄りが楽しそうに会話をしたり、童謡を歌ったり、ふらついていた足取りがしっかりしてきたりと、どんどん変わっていく姿を見るに付け、始めて良かったとつくづく思います。

次のステップとして、子育て支援に取り組むことにしています。

第1に、町の公民館が主催しているカンガルー学級（0歳から3歳までのお子さんを持つ両親と子供が対象）とのタイアップを模索しています。公民館の担当者に相談し、まず、私たちのデイサービスを見学に来ていただくよう働きかけてもらうことにしました。今後は、若いお父さん・お母さんのご意見を聞きながら、お子さんを連れて自由に出入りしていただき、親同志の交流のみならず、子どもたちとお年寄りの交流をも進めていきたいと考えています。



第2に、保育ママとの連携を考えています。既に、赤ちゃんを預かってほしいと相談に来られたお母さんに保育ママを紹介したことがあります。今後は保育ママ達と連携し、保育所に預けられないお母さん方のニーズに応えられるようにしていきたいと考えています。

第3に、乳幼児の託児を実施し、幼老統合介護を目指すことにしています。

なお、8月には、夏休み中の小学生20人程に3日間来てもらい、お年寄りと一緒に天ぷら油の廃油からエコキャンドルを作ってもらいました。8月20日には「くれよん夏祭」を開催し、30人ほどの子どもたちの手で200個のキャンドルを庭に飾り、夕暮れとともに点灯しました。ろうそくの炎の中で繰り広げられたママさんコーラスやフラダンス、尺八の演奏を地域の皆さんに楽しんでもらいました。

今後は、地域に開かれた施設として、幅広い年代の人々が交流する場にしていきたいと考えています。

17 歌劇団あもれ座

歌劇団あもれ座 第2回公演《ドン・ジョヴァンニ》

事業実施期間

企画開始：2009年1月 稽古開始：2009年10月

本番：2010年3月

事業実施場所

19日：草加市文化会館ホール

22日：熊谷文化創造館さくらめいと太陽のホール

共催、後援、協力団体

埼玉県、埼玉県教育委員会、おおきな木MUSIC SPACE、学校法人開智学園、東京新聞熊谷支局、読売新聞埼玉支局

動員対象者人数

指揮者1人、演出1人、他スタッフ21人、キャスト

8人、合唱：現在17人、オーケストラ：現在32人

観客：1800人（両会場とも満席の場合）計1880人

歌劇団あもれ座は、オペラを通して様々な人と交流したいと考える東京藝術大学の学生・院生・卒業生が中心となり、2008年に結成されました。団体名はイタリア語の「amore=愛」に由来。公演地域の方々と共に舞台を創り上げることによって、音楽を愛し人を愛する心の輪が広がることを

目指しております。

第1回公演では、島根県の松江市総合文化センタープラバホールにてオペラ《愛の妙薬》を上演し、島根県民の方に合唱やスタッフとして多数参加していただきました。また日本語での「語り手」を入れたり、地元の名産物を舞台に登場させたりと、よりお客様に喜んでいただけるような工夫をいたしました。お客様や取材に来ていただいた新聞社様からは「楽しかった」「またやってほしい」という声を多数いただき、地域参加型の舞台これからも続けたいと願う私達にとって大きな励みとなりました。

今度のあもれ座は埼玉県にてさらにパワーアップした公演を目指しております。まず、前回はピアノ伴奏だった演奏をオーケストラに拡大、オーケストラ団員はもずの地元埼玉に在住・在学の方々です。次に、より多くの方にオペラの楽しさを知っていただくために、公演場所を2か所に



増やさせていただきました。最後に、私達自身の技術・運営の向上のため、キャストの歌唱力の増強、より本格的な演出と舞台美術の導入、卓越したスタッフの動員などを行っております。

現在は、キャスト・オーケストラ・合唱の稽古開始を目前に、今後地域との交流がいよいよ本格的になるという段階です。一方美術スタッフ陣は舞台装置・衣装などを着々と準備し、運営スタッフは広報活動に奔走しております。若さあふれる歌劇団あもれ座が、地域社会に対して何を発信できるか、今後も見守っていただけたらと思います。

なお、あもれ座では合唱・オーケストラ・スタッフとして一緒に舞台に参加して下さる方を常時募集しております。活動の様子は<http://ameblo.jp/amoreza/>に掲載中ですので、ぜひご覧ください。なお、写真は前回公演の様子になります。公演の成功に向け、精一杯努力してゆきたいと思っております。

2006～2008年度助成金事業一覧

2008年度「まちづくり人」応援助成金交付先一覧表			合計助成金額 5,664,960円		
団体名	事業名称	助成金額	都道府県	対象項目	
1 特定非営利活動法人 楽笑	地元の特性を生かした街づくり	500,000	愛知県	1.2.3.4.5.6	
2 紫波中央駅前コミュニティー・プラザの会	「なんでも屋・おせっかい」を拠点にした「む近所づきあい」の復活	500,000	岩手県	1.2.4.	
3 特定非営利活動法人 西淀川子どもセンター	「ぼびんず」(子ども相談室)と「よっしゃ」(子ども地域サポーター)ではぐくむ、子どもの『安心・自信・自由』	200,000	大阪府	1.2.3.4.5.6	
4 ナキウサギの鳴く里づくりプロジェクト協議会	富良野地域における「ナキウサギを核とする自然との共生」ガイドライン作成をまちづくりへ活かす	470,000	北海道	1.2.3.6	
5 特定非営利活動法人 CC 愛編集室	石のバンク	500,000	兵庫県	1.3.4	
6 まちの家赤坂宿 準備室	週末健康カフェ	200,000	岐阜県	2	
7 盲導犬関連ボランティア団体「フリーラン」	音と写真で楽しむ、まちのイメージマップ - (副題) あなたも行ってみませんか?	94,960	神奈川県	1.2	
8 尾道空き家再生プロジェクト	子育てママのいきいきサロンづくり	500,000	広島県	5	
9 特定非営利活動法人グリーンスポーツ奈良	公園・広場に芝生(ティフトン)を皆で植えて、おもいっきり遊び運動する場をつくろう	500,000	奈良県	2.5	
10 下京こころのふれあい交流サロンふっ実行委員会	ひとりぼっちにならない、させないまちづくり ～地域のお茶の間サロンからの発信～	500,000	京都府	1	
11 路地裏ネットワーク	地域をつなぐホテル復活計画	450,000	岩手県	2.4	
12 どうぶつ福祉の会 アニマルサポート・ノア	地域の動物愛護に関する意識向上を補助する事業	350,000	茨城県	1.4.5	
13 大聖寺 家守クラブ	加賀大聖寺「第2回やもり市 やもりものエコなくらしかた」プロジェクト	500,000	石川県	1.2.3.6	
14 コミュニティスペース運営委員会	大学生による地域の活性化 地域の居場所事業 コミュニティスペース PECO	400,000	大阪府	2.3.4.5.6	

2007年度「まちづくり人」応援助成金交付先一覧表			合計助成金額 6,580,000円		
団体名	事業名称	助成金額	都道府県	対象項目	
1 天川☆星座遺産プロジェクト2007実行委員	天川☆星座遺産プロジェクト 2007 - 星々で紡ぐ記憶の遺産 -	380,000	東京都	1.2.3	
2 特定非営利活動法人 北海道ツーリズム協会	異業種交流による「暮らし感動プロジェクト・田舎暮らしのススメ」	300,000	北海道	1	
3 今立 古民家・匠・ロングステイプロジェクト実行委員会 (いまだて遊作塾)	地域のぶらっとほーむ『遊作の里づくり』	500,000	福井県	1	
4 特定非営利活動法人 サン・はぎわら	“あったか広場” 運営事業	400,000	岐阜県	1.2.3.4.5.6	
5 福岡の朝・魅力向上計画実行委員会	「福岡の朝・魅力向上計画」朝カフェ3	300,000	福岡県	1.2.3.4.5.6	
6 津七たまつり実行委員会	津七たまつり実行委員会 始動プロジェクト	150,000	三重県	2	
7 八幡酒蔵工房	社会循環型『八幡酒蔵工房』開設	500,000	滋賀県	1.2.3.4	
8 愛媛県神道青年会	愛媛の伝統文化 IN 道後	300,000	愛媛県	2.3	
9 駄菓子屋「くにちゃん」	子どもの居場所・多世代との交流	300,000	東京都	5	
10 環境プロジェクト三保三隅百姓会	「土藁屋」創りでまちづくり事業	500,000	島根県	1.2.3.4.5.6	
11 特定非営利活動法人 町田楽友協会	バリアフリー オーケストラのためのセラピー パーカッション等の購入	300,000	東京都	3	
12 U nited Children	Sunshine Festival 2007 サンシャイン フェスティバル 2007	300,000	静岡県	2.3.6	
13 ピープルズシアター・リコリコ	みちばたからまちづくりプロジェクト「みちばた劇まつり」	500,000	埼玉県	1.2.6	
14 特定非営利活動法人 俳句甲子園実行委員会	第10回 俳句甲子園 全国高等学校俳句選手権大会	150,000	愛媛県	2.3	
15 鶴沼の緑と景観を守る会	鶴沼(藤沢市)の緑と景観を守り、歴史的建造物などの文化財を大切に住民参加のまちづくり	300,000	神奈川県	1.3.4	

2006～2008年度助成金事業一覧

16	社団法人 天童青年会議所	第28回全国中学生選抜将棋選手権大会 第9回女子の部	100,000	山形県	1.6
17	社団法人 山梨青年会議所	文化財・大井俣八幡神社を使った山梨市のまちづくり	100,000	山梨県	1
18	社団法人 豊田青年会議所	エコキッズ事業	100,000	愛知県	3.6
19	(社) 静岡青年会議所	「しずおか未来学園」親子の絆・次代創造～過去・現在そして未来へ～	100,000	静岡県	5
20	社団法人 高知青年会議所	RUN FOR ALL 2 「ノーマライゼーション社会へ」	100,000	高知県	1.2.3.4.5.6
21	サザンビーチフェスタ実行委員会	茅ヶ崎市制60周年記念事業 サザンビーチフェスタ'07	100,000	神奈川県	1
22	社団法人 西条青年会議所	2007夏休みチャレンジわんぱく西条プロジェクト「夏プロ」	100,000	愛媛県	1.2.3.4.5.6
23	ウォークリーチーム	ウォークリー	100,000	愛媛県	1
24	社団法人 岩国青年会議所	岩国市民参加型総合音楽祭【音楽の祭典 WAIWAIWA!】	200,000	山口県	1.3.6
25	社団法人 久慈青年会議所	いわて久慈のたからものえほん製作事業(第1期)	200,000	岩手県	2.5.6
26	社団法人 寒河江青年会議所	40周年記念事業 2007年度夏休み少年少女 心のあかり～六十里越街道、出羽三山を通じて～	200,000	山形県	5

2006年度「まちづくり人」応援助成金交付先一覧表

合計助成金額 5,700,000円

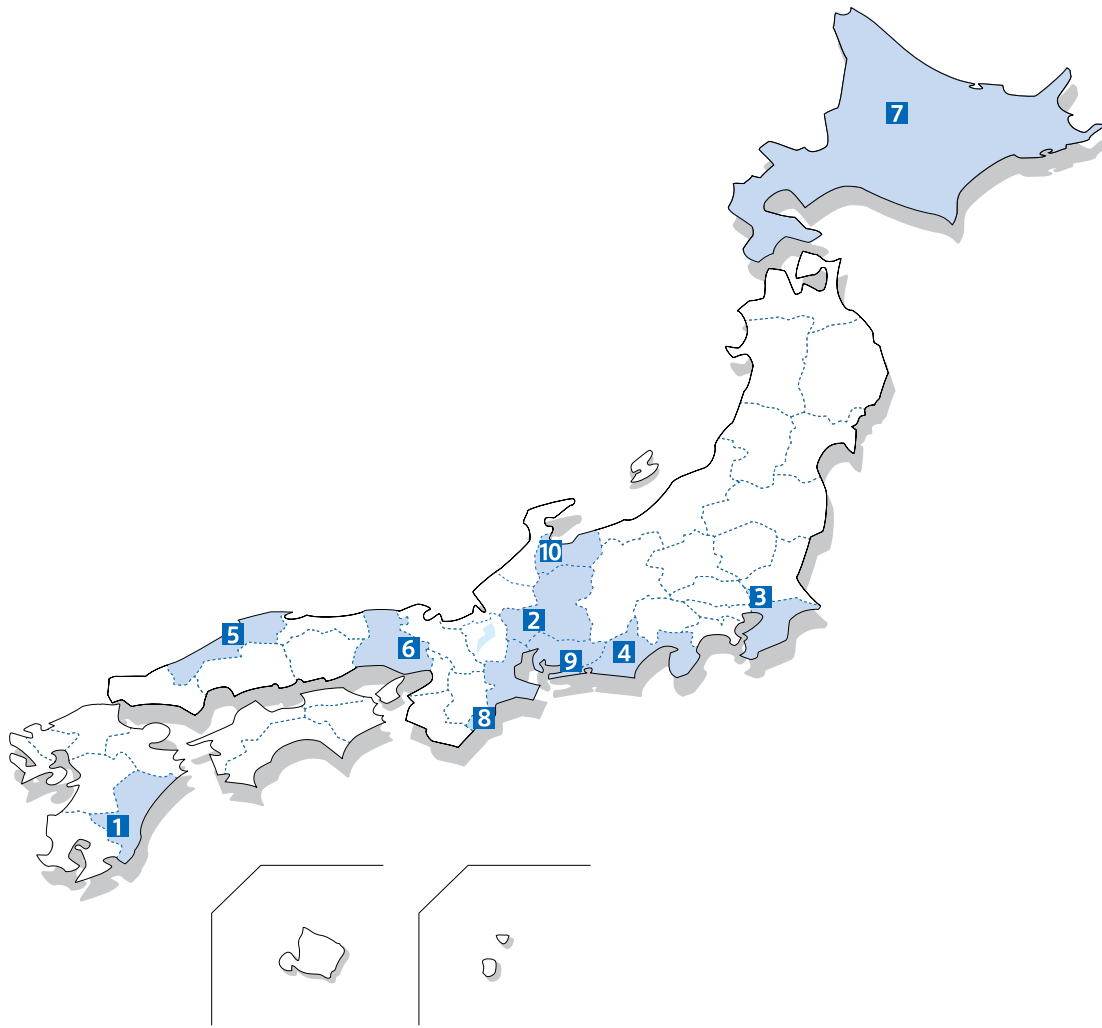
	団体名	事業名称	助成金額	都道府県	対象項目
1	東鳴子ゆめ会議	GOTEN GOTEN 2006アート湯治祭	500,000	宮城県	2
2	特定非営利活動法人 サン・はぎわら	まちかどサロン開設・運営事業	500,000	岐阜県	2.3
3	「心の子育てネット にしよどがわ」	子育てしやすい街づくり事業	500,000	大阪府	5
4	高知県東海岸町並みネットワーク会議	土佐の町家雛まつり イベントおよび講習会の開催	500,000	高知県	1.2.3.4
5	「かぐや姫」なごみの里竹原	なごみの里竹原景観整備	500,000	栃木県	1
6	特定非営利活動法人藤枝・お茶事の村	藤枝「お茶の香ロード」演出イベントと「まちづくり研究会」の運営	400,000	静岡県	2.3.4
7	特定非営利活動法人 キッズアイランド淡路島	冒険の島「淡路島」～キッズ宝島プロジェクト～	500,000	兵庫県	5
8	新世界アーツパーク未来計画実行委員会	ビッグ益!	500,000	大阪府	1.2.3.4.5.6
9	小田原まちづくり応援団	小田原デザインストリート 2006 水と緑の歳時記	500,000	神奈川県	1.2.3.4.5.6
10	イカスイかるみん	一来田家洋館の登録文化財記念展覧会	300,000	東京都	1
11	特定非営利活動法人ブリッジ	都市と農村の交流によるまちづくり事業「田舎い～なか隊!」	500,000	熊本県	3.4.5.6
12	狛江青年会議所	狛江・落書き一斉消去・プロジェクト・2006	200,000	東京都	2.3
13	社団法人 鹿児島青年会議所	かごしまキャンドルナイト 2006	100,000	鹿児島県	1
14	社団法人 東京青年会議所 第4地区特別委員会	第2回 THINK SETAGAYA ～せたがやまちづくり～	200,000	東京都	1.3.6

2006年度災害復興支援事業一覧表

合計助成金額 900,000円

	団体名	事業名称	助成金額	都道府県	対象項目
1	災害応援にゃんこ隊	復興へ山古志の子ども達からの発信 まちの元気プロジェクト	200,000	新潟県	-
2	公的援助法実現ネットワーク被災者支援センター	高齢者・障害者生活サポート活動	500,000	兵庫県	-
3	社団法人 雪国青年会議所	目指せ地域の復興と自立! 「しゃくなげ湖畔」地域再生事業	200,000	新潟県	-

共同研究事業交付地



2009年度 共同研究事業交付先一覧表

団体名	事業名称	都道府県
1 社団法人 都城青年会議所	愛郷（よかとこ）フェスティバル	宮崎県
2 社団法人 岐阜青年会議所	スイーツフェスタぎふ 2009	岐阜県
3 社団法人 野田青年会議所	雑草からエネルギー・地産地消のまちづくり	千葉県
4 社団法人 藤枝青年会議所	『スイーツのまち藤枝』スイーツコンテスト	静岡県
5 社団法人 島根大田青年会議所	銀の風 夢まつり 2009 ～シルバーラッシュを巻き起こせ！～	島根県
6 社団法人 篠山青年会議所	第4回丹波ささやま 大田動会	兵庫県
7 社団法人 旭川青年会議所	たいせつマルシェ 2009	北海道
8 社団法人 尾鷲青年会議所	笑顔あふれる緑の校庭 2009	三重県
9 社団法人 穂の国青年会議所	～豊川のいなり寿司を全国に通用するブランドに～	愛知県
10 社団法人 射水青年会議所	協働型社会育成事業 郷土カルタ作成	富山県

1 社団法人
都城青年会議所

愛郷 (よかところ) フェスティバル

事業実施期間

2009年 8月

事業実施場所

宮崎県都城市中町14-15
宮崎県都城市内大丸センターモール

共催、後援、協力団体

(社)都城観光協会 (社)都城商工会議所 大浦株式会社
都城大丸 三股町観光協会 荘内商工会 高城観光協会
都城歴史と文化のまちづくり会議 0986会
(株)津曲食品 (有)日野米菓 (株)はざま牧場 (株)サクラ
ドリームゲート (株)せとやま弁当 (株)田中精肉店

動員対象者人数

8月8日(10時~21時) 2000人
8月9日(10時~16時) 300人

本事業は、自分の住むふるさとを愛する心、地域の特性を知る事、地域を誇りに思う気持ち、ローカルアイデンティティの推進に繋がると考え8月8日、9日と二日間、「愛郷フェスティバル」として、都城中心部のデパート内特設広場に開催しました。

事業のコンセプトとして、現在たくさんのまちづくり団体が私たちの故郷には存在し、それぞれの着眼点と時代背景を考え、ふるさとの為に活動をされています。都城青年会議所も創立当初から先輩方が地域の為に、色々な事業や活動をされています。これからのまちづくりにおいて魅力あるまちをつくらなければならないか。他団体とのかわり方、連携をどうして行くべきか

を見つめなおす時期に来ていると考え、他団体、協力企業、来場される多くの方に自分の住むふるさとを愛する心、地域の特性を知る事、地域を誇りに思う気持ちを伝える事をコンセプトと致しました。

事業の内容と致しまして、8月8日は都城でも最大の祭り盆地まつりがフェスティバル会場周辺で開催されたのもあり、たくさんの来場者で賑わいました。愛郷フェスティバルのイベントとして8日は都城に存在する様々なまちづくり団体に参加してもらい会場内に用意したステージ上にて各活動のPR、我々青年会議所で作成した愛郷探訪というクイズに答えながら都城を携帯で観光してもらうQRコードを使ったものを紹介。また地場製品の発掘としまして地場製品の各会社に協力してもらい愛郷弁当を作成し、2日間限定で販売しました。9日においても都城商工会議所主催の「ぼんち市」という朝市が会場周辺で開催され賑わいました。フェスティバル会場内では愛郷コミティーとして都城市長、商工会議所会頭、観光協会会長、青年会議所理事長をお招きしてパネルディスカッションを行い今後の都城について語ってもらいました。コミティーの括りとし、最後に会場内の皆様と一緒に「都城大好き宣言」をして閉会しました。この2日間のイベントを通して都城の方に様々な団体の活動内容や地域の特

性を理解してもらい、自分たちが生まれた故郷、今住んでいるまちが大好きだという気持ちを再確認し、都城をさらに大好きになり誇りに思う人々が増え、まちの活性化に繋がっていくきっかけを作ることが出来たと考えます。また本事業をきっかけに各団体が連携をとりながら一緒によりよいまちづくりを目指す初めの一歩を創造できたと考えます。そしてこの事業はこれからも継続的に、PDCAサイクルをしっかりと繰り返し三位一体となつたまちづくりを目指していくべきだと考えます。また動員等に関しましては祭りの効果もあつたためたくさんの方の来場者に見てもらったことができたが、祭りの始まる前の時間帯等は来場者が少なくPRをしたが人数が少なくたくさんの方に活動内容や思いを伝えられなかった団体の方もいらっしゃいました。この動員に関しては今後の課題の一つと考えます。また、今回作成した愛郷探訪(QRコード)は今後観光協会様にて引き続き進化をしていただけることになりました。愛郷弁当は非常に満足がされていました。初めての企画で、改善内容はありますが、是非継続し愛郷弁当として残して頂きたいと思ひます。最後に、この愛郷フェスティバルを終えて心の中に再確認出来た思いは、故郷を愛している。都城が大好き!と胸を張って宣言できることです。



2 社団法人
岐阜青年会議所

スイーツフェスタぎふ 2009

事業実施期間

2009年 8月

事業実施場所

岐阜市柳ヶ瀬商店街一帯

共催、後援、協力団体

岐阜県、岐阜市、岐阜県真ん中夏まつり実行委員会、
サマーフェスタ実行委員会、スイーツフェスタぎふ
2009実行委員会、岐阜県洋菓子協会、JAぎふ、
協賛企業各社

(1)動員対象者人数

(社)岐阜青年会議所ではスイーツを切り口とした、ぎふのまちの魅力を創出するためのイベント「スイーツフェスタぎふ」を岐阜市の柳ヶ瀬で実施しました。これは、2007年に当団体で策定した「スイーツガーデン構想」の実現に向けての中心市街地活性化イベントで、「誰もが行ってみたいくなる、何度行っても新しい発見がある空間」づくりを基にしています。

2008年に続き2回目となる本年は、市民ボランティアや自治会、地域のNPO団体の方々と構成する「スイーツフェスタぎふ2009実行委員会」を立ち上げ、また、商店街振興組合連合会の方々が主体となる2つの実行委員会と連携して事業を行いました。実行委員会の会議のなかでは、「スイーツガーデン構想」に共感をいただき、同じ中心市街地事業として、ご協力をいただきました。

結果、イベント当日は雨天であったにも関わ

らず、動員総数5,400名という多くの方に柳ヶ瀬一帯に足を運んでいただきました。

主だったイベントは、①ベストセレクションカフェ2009(県内外のスイーツ店を約50店舗のお菓子を味わう事ができる、ミニスイーツガーデン。岐阜県洋菓子協会の方々に協力をいただきました。)②子ども対象の洋菓子・和菓子教室(市内の和・洋菓子職人を招聘し、小学生を対象に、お菓子作りの楽しさを実際に体験し知ってもらう企画。)③柿沢安耶のぎふスイーツづくり(東京で活躍されている、柿沢安耶氏を招聘して実際にぎふの特産物「枝豆」を使つてのぎふスイーツの創作と、お菓子作りとしての心得、菓子職人を対象とした講演企画)④スイーツアート(岐阜市の保育園児を対象として、スイーツをテーマに描写してもらった絵画の展示。)⑤柳ヶ瀬エリアでのチェックポイントラリー(柳ヶ瀬にある魅力をクイズ形式で再発見してもらいながら街での回遊性を高める企画。)⑥中高生ブース(中高生サポーターを募集して、マジパンを使って岐阜のまちのジオラマを作成した。)⑦実行委員会ブース(柳ヶ瀬のゆるキャラ「やなな」との撮影会、大衆演劇「豊富座」の練り歩き、自治会のスイカ割り、チンドン屋の街廻りなど)⑧やなな(もなかにぎふの特産物「枝豆」を練りこみ、柳ヶ瀬飲食店8店に協力いただき、個店独自のおやつを作成)

(2)活動内容及び現況報告

イベント当日に至るまでに、サポーターや、実行委員会の方々や協力して、イチゴ狩りから、かき氷ペースト(振る舞い用)を製作したり、やなマップ(柳ヶ瀬地区のスイーツ関連マップ、44店舗を掲載)を作成したりと楽しみながら作り上げることができました。また、数年来、空き店舗であった建物(以前はデパート)をメイン会場とするために、清掃活動や会場設営など、多くの方に協力をいただきました。本事業は、市民・企業・行政の協働をテーマに、地域との関わり、地域が創るまちづくりを目的に、中心市街地の商店街や、そこに携わる人や団体との実行委員会形式による協議体を設置・参画してきました。「構想検証」となる「スイーツフェスタぎふ2009」を開催し、予想以上の集客を得て大盛況に行うことが出来ました。また、構想を期待する声も高く、訪れた参加者や商店街、地元の方々からも高い評価を頂きました。

今後は、次年度以降の活動に繋げるため、行政懇談会での意見交換、意見広告での発信、市長例会で事業の発表を行う予定です。中長期計画による、中心市街地の活性化に繋がる「ぎふスイーツガーデン」構想をより現実的に実現を目指していくうえで、組織・団体づくりのひとり、空店舗対策・誘致のまちづくり活動に邁進して参ります。



3 社団法人 野田青年会議所

雑草からエネルギー・ 地産地消のまちづくり

事業実施期間

- 1) 2009年5月
- 2) 2009年8月
- 3) 2009年10月
- 4) 2009年10月

事業実施場所

- 1) 野田市総合公園小体育館
- 2) 千葉興業銀行駐車場
- 3) 野田市文化センター駐車場
- 4) 野田市役所8F大会議室

共催、後援、協力団体

株式会社コンティグ・アイ（8月事業の展示ブース機材提供、オペレーター派遣、10月講師例会の協力）

岐阜大学応用生物科学部（10月第1例会の講師派遣）

キッコーマン株式会社（8月、10月事業の協賛品提供）

動員対象者人数

事業実施期間中に3,000人の署名を集めることを目標とする。

市内で発生する植物性廃棄物（雑草、刈り芝、稲藁、粉殻）からバイオエタノールを生成し、市内で利用する乗り物などの燃料として使用することで、リサイクル率の向上、ゴミの減量、CO₂排出量の削減、資源枯渇保護に繋がり、さらには市内で発生した廃棄物から市内で消費するエネルギーを製造することで、循環型社会が形成されて地産地消のまち



づくりにも繋げることが可能なこの提案を、野田JC主催のオープン例会や市民が多く集まる市内の各種イベント等にPRブースを出展したり、この技術開発の第一人者である岐阜大学応用生物科学部の高見澤教授を講師にお招きしたりして、多くの市民にその仕組みと有効性を継続的にPRして署名運動を行っていく。そして一連の事業を終えた時点で提言書を作成し、署名運動の結果と併せて野田市に提出する予定。さらに国益に寄与することのできる自律したつよい地域となるべく、将来的には提案に終わらすことなく実現も目指していく。

現状報告としては、まず5月16日に開催した当LOM主催の青少年育成事業を開催した会場内の一部を使用して、バイオエタノールの製造過程やその有効性を展示パネルや映像等でPRし、約150名の署名を集めた。次に8月8日、9日に開催された市内イベント会場では展示パネルや映像の他に、バイオ燃料生成プラントの開発や販売を手掛けている株式会社コンティグ・アイ様のご協力により、展示会場に研究員を派遣して頂いて、生成装置を使いながらバイオエタノールの製造工程を実演して頂いたり、さらにバイオエタ

ノールで発電機を動かしてミニトレインを走らせたり、その他イベント会場の電力の一部として活用し、より深く市民にPRをさせて頂いた結果、約250名分の署名を集めた。なお、その他LOMメンバーの口コミ等で別途約250名分の署名が集まっており、10月24日、25日に行われる市内イベントでの最終PRを控えた時点で、署名数は約650名となっている。今回の事業計画期間中に、署名目標人数の3,000人を集めるのは厳しい状況だが、当日は毎年市内外から多くの人々が来場する地域に根付いた産業に関わるイベントということもあり、今までとはまた違った市民層に対してPRすることが出来るはずなので、最後まで諦めずに署名運動を行いたい。



4 社団法人 藤枝青年会議所

『スイーツのまち藤枝』 スイーツコンテスト

事業実施期間

2009年8月～11月

投票期間 9月1日～10月7日

事業実施場所

藤枝青年会議所 ホームページ

共催、後援、協力団体

共催：(財)まちづくり市民財団

後援：藤枝市・藤枝市観光協会

動員対象者人数

(1)スイーツコンテスト出品者募集…藤枝市内10店舗参加

(2)インターネット投票…37日中14日目の状況

投票数：2607票 閲覧数：15,286回

当選者：32人

(3)試食ピーアールブース

試食受取：800人 ガイドブック受取180人

外部協力：市長、藤枝市職員3人、観光協会3人

マスコミ：テレビ局2社、新聞社1社、その他取材2社

スタッフ：ボランティア6人、委員会メンバー5人、役員4人

(4)表彰式…10月31日予定

(5)スイーツショップアンケート……11月8日～11月15日予定

(1)スイーツコンテスト出品者募集

藤枝市内のスイーツショップ市内66店舗に募集要項を届け地元（静岡県中部）で生産されたお茶を使ったスイーツを出品してもらうよう依頼をした。定員10店舗の所に13店舗間



合せ、申込があったが、募集要項の参加要件を確認し、10店舗の参加を認証した。募集要項には参加申込の方法はメールに限るとしたにも関わらず、電話やFAXで申し込みがあったり、指定の写真を送ってこないお店などがあり苦労した。

(2)インターネット投票

出品された10品についてピーアールするページを作成し、一般市民に食べてみたいスイーツ、おいしそうなおスイーツについて投票してもらっている。～10月7日まで

<http://www.fujieda-jc.or.jp/sweets/index.html>

(3)試食ピーアールブース

9月5日（土）に藤枝駅南北自由通路（パープルロード）にてピーアールブースを設営した。出品された10店舗の地図、スイーツ写真が載った参加用紙を配布し、JCメンバーや外部からの一般参加者に配布をし、投票を呼びかけた。昨年製作したガイドブックを無料配布し『スイーツのまち藤枝』をピーアールした。ボランティアスタッフのスイーツ娘5人に、試食の配布・ピーアールのお手伝いをしてもらった。

(4)表彰式 *未実行

インターネットの得票数がもっとも多かつ

た店舗が大賞とする。

上位5位の中から藤枝JC賞と市長賞をそれぞれ選ぶ。藤枝JC賞はお茶の魅力を最大限に引き出したと理事長が判断したスイーツに贈られる。市長賞は藤枝を最もよくアピールしたスイーツに贈られる。

表彰式は関連団体の『スイーツのまち藤枝』推進会議によるスイーツイベント「藤枝スイーツコレクション2009」の中で行ない、市長より直接『スイーツのまち藤枝』にかける思い、意気込みなどを一般参加者の中で語って頂く。

(5)スイーツショップアンケート *未実行
事業の反省、評価、報告に役立つよう参加スイーツ店にアンケートを行なう。



5 社団法人
島根大田青年会議所

銀の風 夢まつり 2009 ～シルバーラッシュを巻き起こせ!～

事業実施期間

2009年7月

事業実施場所

仁摩サントミュージアム、仁摩健康公園 (大田市仁摩町天河内975)

共催、後援、協力団体

後援…島根県、大田市、(財)シルバーランド振興事業団、大田商工会議所、銀の道商工会、大田商工会議所青年部、銀の道商工会青年部、大田商工会女性会、銀の道商工会女性部、大田市観光協会、島根中央信用金庫、中国経済産業局、(財)しまね産業振興財団、(独)中小企業基盤整備機構中国支部

動員対象者人数

来場者…4,000人 参加団体…42団体

2007年7月、我々は地域の魅力を発信する共感と協働による事業を目指し、産業振興からのまちづくりを目的に「銀の風 夢まつり」を開催した。今年度は、「地域の力」をテーマとして前回のまつりをとおして生まれた絆と、産業振興からのまちづくりという目的を引き継ぎ、新たな「銀の風 夢まつり」の開催を企画した。

事業前日の天気予報から雨天での開催を前提とした設営を考え、ステージ上にテントを組み、屋台村のすぐ前に来場者の雨よけと休憩用のテントを設営した。当日は雨予報の中での開催となったが、41団体全ての参加者が会場に集まり、ステージでの天領太鼓の演奏

からまつりが始まった。ときおり雨と風が吹く中でのオープニングとなったためステージ横にブルーシートを張り雨風を凌いで演奏となったが、そのような中でも曲目を変更して素晴らしい演奏を披露して頂いた。林理事長、竹腰市長の挨拶に続いてステージイベントでは、土江子ども神楽団、和笑(よさこい踊り)、餅まき、石見神楽温泉津舞子連中のパフォーマンスにステージ前は大人から子どもまで来場者で一杯となり、舞台を見つめるその表情から芸能としての伝統・文化が地域に根付いているを感じた。

食物産の屋台村では23店舗が軒を連ね、来場者に自慢の一品を販売された。当日は市外・県外からの来場者も多く、中には大田にこれだけの特産品があることを知らなかった、という声も聞かれ食としての魅力発信が出来ていると感じた。また、店舗ごとで商品の売り方・見せ方が違いバラエティーに富んだ屋台村となり、元気に販売する参加者が集まったことでよりまつりに活気が生まれた。

ものづくりブースでは、温泉津やきもの館の絵付け体験、(株)小林工房の神楽面絵付け体験、楳栗の轆轤体験と実際に自分で作業をして温泉津焼きや石見神楽を感じる体験コーナーを設けた。ブース会場がステージ・屋台村

から離れていたこともあり体験者が少なかったが、子ども達が夢中で作業する姿を見ることが出来、実際に伝統・文化を継承する本物の職人から教わったことは大きな経験となるように感じた。

ビジネスマッチングブースでは経営支援・経営相談コーナー、大田ブランドコーナー、定住相談コーナーを設けた。経営支援・経営相談コーナーではまつり当日までに参加者から事前アンケートを集めていたが、まつり当日に交流をする事が難しく、参加者・アドバイザーを結ぶ継続した仕組みが必要だと感じた。大田ブランドコーナー・定住支援コーナーでは食べたり触れたりという体験する場ではなかったので来場者が集まりにくかったが、活動のPRすることで認知度は上がっていき、人の集まるまつりへの出店は効果があるように感じた。

「銀夢に出る」と言っていただけで活力溢れる参加者の協力によってまつりを無事に終わることが出来た。私達が住むこのまちには様々な魅力があり、それを生かすことで地域の力となりまちづくりに繋がっていきと考えていたが、何よりも集まってくださった人への感謝と、人が集い一つの方向に動いたときに生まれる力の素晴らしさを感じる事業であった。



6 社団法人
篠山青年会議所

第4回丹波ささやま 大田動会

事業実施期間

2009年6月

事業実施場所

兵庫県篠山市味間奥 田んぼ

共催、後援、協力団体

篠山市・篠山市教育委員会・茶まつり実行委員会

動員対象者人数

* 競技参加人数 12チーム 約75名

* 茶まつり観客動員 2日間7,500人



「夢中で遊ぶ」をキーワードに郷土というフィールドを舞台に水田の中での運動会『第4回丹波ささやま大田動会』を開催しました。世代を繋いでいく地域の人々が、参加者は勿論ですが観客も一体となり、この運動会で土に触れ、泥こになりながら盛り上げることで郷土を愛し、育む心を養いました。本年度の特色として会場設営時に地元の主婦ボランティアサークル「茶の花クラブ」から手作り案山子を提供頂き、田舎らしい田園風景に仕上がりました。そして、競技場内に相撲の「砂かぶり席」を模した「泥かぶり席」を設営して競技参加者だけでなく観客にも水田の臨場感を味わっていただきました。また、参加者テント後方に小さい水田を作り、稲を植えて参加者及び観客にバケツ稲として配布もしました。



事業開催後の現況報告としましては、参加者から、田舎で育ったが実際に田んぼに入るのは初めてで、こんなに夢中になるとは思わなかった。など田園都市に住みながらも田んぼを風景としてしか捉えていない方も多数見受けられました。このような感想からも田んぼを「稲を植える所」から「事業構築していく一つのツール」としても可能性を感じました。開催翌日の地元新聞などにも写真入りで掲載されました。開催に協力いただいた他の団体(JA、地元自治体)からも是非、来年も開催をお願いします。との言葉も頂いております。

これからは事業内容の固定化や他団体との連携強化などの問題もありますが、年間を通しての連携で問題解決へと進めております。

7 社団法人 旭川青年会議所

たいせつマルシェ 2009

事業実施期間

2009年7月～10月 (うち6日間の開催)
(7月26日・8月9日・23日・9月6日・20日・10月4日)

事業実施場所

旭川市平和通買物公園
(市内中心部のメインストリート※歩行者天国)

共催、後援、協力団体

共催 (主管) たいせつマルシェ実行委員会
後援 旭川市・北海道上川支庁・旭川商工会議所

動員対象者人数

旭川市を中心とする上川中部1市8町 (旭川市・東神楽町・東川町・鷹栖町・当麻町・比布町・美瑛町・上川町・愛別町)
対象人口は413,522人 (2007年3月末データ)

地域の魅力であり資源である「食」による地域活性化を狙い市内中心部にマルシェ (市場) を設けるもの。「食」に関する魅力や情報の発信を図ることで対外的なPRの環境づくりや地産地消の推進を進めます。また、生産者と消費者との間に顔の見えるコミュニケーションの関係を構築することで、安心・安全な生産物の認知や健康増進の意識など消費者の「食」に関する意識変革を促すとともに、新たな食文化の創造を目指すものです。

本年度は、本事業を実験的に着手した昨年度の実績により、旭川市を通した北海道上川

支庁からの地域政策総合補助金による支援を受けての事業展開を図ることができました。これを受けて本年度は、出店関係者、行政関係者、商店街関係者の参画による協議機関としての実行委員会を組織し、開催前から議論を進めてきたほか、計画的な開催を目指し隔週の日曜日開催により実施するものとしました。

生産者や菓子店など22の出店関係者との間に実行委員会を組織し、開催ごとに開催・運営にかかる議論や改善検証を行いました。関係者各位の協力によるチラシの配布やポスターの掲示、街頭放送を利用するほか広報媒体の選定など広報のあり方やPR方法の改善に努めたほか、第5回目からは試験的に百貨店周辺の位置に場所を変更するなど開催場所の検討を行いました。出店関係者などで構成する実行委員会では常に活発な意見交換が行われているほか、開催にかかる準備作業や撤去作業についても積極的な関わりが見られることが本年度の大きな成果ではないかと考えています。これまで全6回のうち5回の開催を無事終了したところです。

これまでの集客実績として、第1回目の

開催から760名、966名、3,782名、1,588名、7,892名と推移し計14,988人の来場がありました。既に最終回に向けた実行委員会においても課題の整理や今後の更なる展開の議論を行っているところですが、終了後に予定している反省会のなかで次年度以降への引継ぎ事項の議論と確認を行う予定です。また、全開催終了後には、各出店者の期間中の売り上げについても集計、整理をした上で売上金額の面からの効果検証も実施する予定です。



8 社団法人 尾鷲青年会議所

笑顔あふれる緑の校庭 2009

事業実施期間

2009年6月～2010年3月

事業実施場所

三重県北牟婁郡紀北町紀伊長島区東長島町立東小学校 校庭
共催、後援、協力団体
紀北町教育委員会、東小学校、東小学校PTA、地域の方々

(1)ポット苗の作成

日時：6月2日 午後1時30分～

場所：東小学校校庭

参加対象者：東小学校全校生徒205名、教職員13名、JCメンバー5名

活動内容：育苗ポット (25穴) に芝張り用の土を入れ芝のティフトン2～3株を一穴一穴に植え込みました。生徒は、高学年と低学年が混ざり合い班を作り全員で作業を行いました。(25穴×200個)

(2)ポット苗の生育

日時：6月2日～7月1日

活動内容：毎日の水遣りを行いました。先生方、生徒に協力をさせていただきました。(毎日7分)

6月7日、21日に施肥を行いました。(NPK化成肥料14% 2kg/回)

(3)ポット苗の校庭への植え込み

日時：7月2日午後1時30分～

活動内容：1ヶ月間育苗ポットで生育させたティフトン芝を校庭に植え込みました。

東小学校の先生、生徒 (4年生33名、5年生34名、6年生28名) PTA、地域の方々に参加していただき、校庭1,200㎡に50cm間隔で植え込みました。唐鍬、小型スコップなどで穴を掘って、ポット苗を埋め、土を戻し、葉っぱが見えていることを確認して、足で押さえつけました。当日は、校庭がぬかるんでおりましたが、穴を開けやすく約1時間位の作業で終了しました。

地元ケーブルテレビ、新聞社の取材を受けました。

(4)夏芝の管理

校庭に植え込んだ芝は、夏休みが終わるまで毎日水遣りを行いました。(スプリンクラー、ホースにより灌水しました。)

夏休み中は、生徒に「水やりボランティア」を募集し、生徒にも行ってもらいました。

今年は、8月上旬は雨の日が多く、日照時間が少なく芝の生育が遅れたようです。

施肥に関しては、2週間に一度行いました。また、校庭に移植後1ヶ月経ちましたので8月2日 (日) から毎日曜日に芝刈りを行いました。

夏休み中は、芝の養生中として校庭に入ら

ないようにしました。

芝の生長が著しい時期でありましたが、雑草も旺盛に伸びました。鳥取方式では、雑草は抜かないのですが、激しく生えている所に関しては、草抜きを行いました。

(5)芝の管理

日時：9月1日以降

活動内容：2学期が始まり、芝が旺盛に生えているところでは、生徒は元気に遊んでいました。しかしながら運動会の練習等で激しく使われているところは、芝の回復が間に合わず、土が見えている所も出てきました。

2週間に一度の施肥と伸びているところの芝刈りを継続しています。

10月下旬にオーバーシティングの冬芝の種を蒔く予定です。



9 社団法人
穂の国青年会議所

～豊川のいなり寿司を 全国に通用するブランドに～

事業実施期間
2009年11月
事業実施場所
豊川駅東ポケットパーク
共催、後援、協力団体
後援 豊川市教育委員会
協力 いなり寿司で豊川市を盛りあげ隊
動員対象者人数
豊川市民 160,000人
豊川市観光客 5,000人程度

本年度社団法人穂の国青年会議所では「地域を良く知る」をテーマに各委員会が活動を行っています。私たち地域ビジネス委員会は、豊川市の観光面の弱さを解決するべく、豊川稲荷といなり寿司を掛けた「豊川いなり寿司」を全国に地域ブランドとして発信できないかと考えました。「豊川いなり寿司」を全国に発信していく事(ブランド化)で市民の考える地域活性(まちづくり)に繋がると考えたからです。今回のいなり寿司の地域ブランド化するにあたっては豊川市観光協会や各地域団体も以前から同様の活動を行っていました。しかし各団体が各イベントを行えばばらに活動しているは一過性の活動になってしまうのが豊川市の今までの現状でした。今回は各団体が継続性を持った地域に根付いた活動を行うため、いなり寿司関連活動を取りまとめ

る「いなり寿司で豊川市を盛りあげ隊」を結成して各団体が協働事業として活動していく事になりました。

今回11月21・22日に豊川駅東ポケットパークにて、キャラクターの発表、地元のいなり寿司販売店を一堂に集めた販売会、稲荷スタンブラリーの実施、地元団体のアトラクションなどを行う、豊川いなりフェスタを「いなり寿司で豊川市を盛りあげ隊」と協働事業を行います。全体の事業の中で、当青年会議所はキャラクターの製作を担当することになりました。キャラクターは、イベント等は一過性でしかなく継続性を持たせる事や、一般公募することで地域住民に「豊川いなり寿司」の周知をする事など、今回のイベントの重要なアイテムとなっています。

実際にキャラクターの応募に当たっては、各小学校・中学校に約15,000枚の応募チラシを配布・ホームページへの掲載・各新聞社への掲載依頼等を行い、9月11日～10月2日まで間に全国から889通の応募があり、10月5日に「いなり寿司で豊川市を盛りあげ隊」のメンバーと当青年会議所のメンバーで選考会を行い、佳作25通を選び、その中から最優秀賞として

1通を選びました。応募チラシを見ていく中で、チラシ全てに応募された方の真剣さや情熱を感じ889通全てに甲乙付けがたい心境でした。今回の応募をした事で「豊川いなり寿司」の全国的な周知と地域に根付く地域ブランドという点で、かなりの成果を得られたのではないかと考えています。また発表は11月21・22日に行う「豊川いなりフェスタ」となっています。

そのほかの活動としては、6月に講師例会、10月に地域ブランドの勉強会行い、参加した方には地域ブランドの基礎知識とまちづくりに対するの自覚を持って頂けたと思います。また12月には豊川市内の中学校へいなり寿司の講師として普及活動を行っていく予定です。



10 社団法人
射水青年会議所

協働型社会育成事業 郷土カルタ作成

事業実施期間
2009年5月～2010年2月(予定)
事業実施場所
射水市全域
共催、後援、協力団体
射水市役所、射水市商工会青年部、射水市商工会議所青年部、射水市観光協会、射水市観光ボランティアの会、エフエムいみず、射水市ケーブルネットワーク、黒河竹墨友の会、射水市美術協会、イベントプランニング彩、射水かるた実行委員会
動員対象者人数
対象者人数は射水市全域の市民94,500名

事業内容

協働型社会の実現に向けて何が出来るかを考えました。協働するにもネットワークが確立しなければ広がりには薄いと考え、団体が取り組み易く、市民も気軽に参加出来ることを模索しました。その中で射水市の背景を考えると5市町村が合併して射水市になり3年が経ち、合併当初のような旧市町村のしがらみは薄れてきてはいますが、自分たちが住んでいたまちのこと以外はよく知らないのが現状でした。その中で団体はかるたを作成することで新たな出会い、気付きが生まれると考えました。また、市民は「かるた」の読み札を考えることで自分たちの生まれ育った、

あるいは生活している地域の魅力や価値を知り、自分とのかかわりを知る事は、郷土を守り育てて行きたいという心情を持たせ、郷土愛を持つことに繋がると考え、射水市に住む市民が後世に語り継ぎたい射水の歴史、次代へ残していきたい自然や文化等を調べ、より郷土への理解が深まると考えました。また、次代を担う子供たちにとっては、郷土の誇りや伝統を知ること、成長する過程での人間形成において重要であり、射水市で暮らす市民が作成したかるたで遊ぶ事を通して、新しい射水市の魅力や価値が理解でき、共感と連帯感や思いやりの持った人格形成に繋がると考え、私たちが含め、市全体を巻き込むことで皆がまちを深く知り、郷土の宝を探求し、その魅力に気付くことで、郷土愛が芽生えると考え、本事業を実施する運びとなりました。製作期間は5月から10月を予定しており、11月1日に射水市誕生際が開催される予定ですので完成発表を行い、2月を目処にかるた大会を開催する予定です。

活動内容及び現況報告

ネットワークを確立する為に色々な団体に声掛けをして参加では無く、参画をして頂け

るような形でお願ひしました。最初は小さな輪がどんどんと大きくなっていくのが実感出来ました。そこでの話し合いの中で市民全体から読み札を募ろうという形を取りました。期間は5月下旬から6月下旬の1ヵ月間で、市民の方には市報と一緒に配布してもらい全ての地域に行き渡るようにしました。各小学校は大変協力的な学校が多かったので全ての小学校に配布しました。予想を超えて大変多くの読み札が集まり4,000の読み札が集まりました。各種団体が集まって集計をし、多くの読み札があったものや射水を語る上で残さなければならない人物や名所などを選定し、(あ)～(を)までの45の読み札を選びました。それを行政機関や有識者の方にご協力を頂いて抜けが無いかをチェックして読み札を決定しました。射水市の美術協会が射水かるたの趣旨に賛同してもらい、射水市の有名画家の皆さんが読み札に合った絵札を書いてもらうことになり作成を依頼致しました。11月1日は射水市の誕生際が開催される予定でありますのでそこでの発表を目指して活動中であり



サマーコンファレンス 2009 ローカリズム推進会議 合同勉強会 報告

社団法人日本青年会議所
ローカリズム推進グループ
ローカリズム推進会議
議長 久住与志人

去る7月24日、社団法人日本青年会議所の事業である「サマーコンファレンス2009」の会場にて、我々社団法人日本青年会議所 ローカリズム推進グループ ローカリズム推進会議と財団法人まちづくり市民財団、そして「まちづくり共同研究事業」助成対象10青年会議所のメンバーと共に合同勉強会を開催いたしました。

前半は中島和生氏（財団法人 まちづくり市民財団 評議員）と高島優氏（同 理事）よりご講演を頂きました。中島氏には改めて「まちづくり共同研究事業」の趣旨について、そしてそもそものまちづくりについてご講演頂きました。続いて高島氏より、今後の「まちづくり共同研究事業」について、取り分け、報告書等のまとめ方等の実務についてご講演頂きました。



後半は朝廣佳子先輩をお招きし、ご講演を頂きました。朝廣先輩は1990年に社団法人奈良青年会議所の第40代理事長を

勤められました。また現在では夏の奈良に無くてはならない一大イベントとなった「なら燈花会」の立ち上げの中心的役割を果たし、初代実行委員長を務められました。このことが認められ、国土交通省が認定する「観光カリスマ百選」において『奈良らしさ』を追求し『なら燈花会』を成功に導いたカリスマに認定されております。「お祭り騒ぎ型」や「一過性」のイベントではなく、「奈良にふさわしい祭りとは、奈良らしい楽しみ方とは」という原点に返ってイベントの本質を追及するところからご講演は始まり、70万人を動員するまでに至った経緯、周辺施設やスポンサー企業、近隣自治会、自治体の協力を得るまでのご苦労等をお話頂きました。最後に朝廣先輩は「地域活性化成功のカギは人の手で作られる。」「地域を元気にするのも、最後は人の力。」と熱く我々に訴えられました。市民意識の改革を旨とする我々青年会議所メンバーにとって、そして地域を元気にする「人」を応援するまちづくり市民財団にとっても非常に有意義な勉強会となりました。



サマーコンファレンス2009 ローカリズム推進会議 合同勉強会 概要

開催日時：2009年7月24日（金）16：30～18：45

会場：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

講師：朝廣佳子（株式会社読売奈良ライフ 代表取締役兼編集長）
（奈良県奈良市）

参加者：高島優（財団法人 まちづくり市民財団 理事）

中島和生（財団法人 まちづくり市民財団 評議員）

春川秀樹（財団法人 まちづくり市民財団 事務局長）

社団法人 日本青年会議所 ローカリズム推進会議 メンバー 40名

まちづくり共同研究事業 助成対象10LOM（社）都城青年会議所、（社）岐阜青年会議所、（社）野田青年会議所、（社）藤枝青年会議所、（社）島根大田青年会議所、（社）篠山青年会議所、（社）旭川青年会議所、（社）尾鷲青年会議所、（社）穂の国青年会議所、（社）射水青年会議所よりメンバー 27名

※なら燈花会ホームページ <http://www.toukae.jp/>

まちづくり共同研究事業勉強会 報告 理事 高島 優

本年、社団法人日本青年会議所と行っている「まちづくり共同研究事業」の一環として担当しているローカリズム推進会議のメンバーと意見交換している中、全国各地で地域事業に取り組みされている「観光カリスマ」の事例を紹介させていただきました。

その一例を社団法人日本青年会議所が横浜で開催するサマーコンファレンスの中でご紹介する機会をえることができました。奈良県奈良市の寺社地域の「なら燈火会」を創り上げられた朝廣佳子さんの講演は、地域イベントを立ち上げ、ひとつの産業として成長させていく過程を詳細に感じ取ることができたと思います。

単なるサクセスストーリーではなく、来客のひとりひとり、ボランティアスタッフのひとりひとりの心象風景を想像しながら、事業行程を組み上げていく繊細さ、さらにそれをスポンサーなどの

ステークホルダーに正確に伝えていく提案力、そして遠く離れても体験欲求を喚起し現地にいざなう訴求力などに成功に甘んじない高い志と信念を感じ取ることができました。

この事例に限らず、大きな感動を呼ぶ取組には必ず共通項目が発見できると思います。「まちづくり共同研究事業」の中で、その共通項目と企業でも行政でもない民間団体として、今後地域で果たす青年会議所の存在意義を発見していきたいと思えます。

（後記）

講演を受講後、夏休みに家族旅行を兼ねて、「なら燈火会」を是非実際に見てみたいと思い、奈良に行ってみよう。台風通過後で開催が危ぶまれましたが、どうにか旅行中に体験することができました。

浮雲園地から浅茅が原、春日大社から東大寺ま

でろうそくの灯かりだけの幻想的な世界に包まれ異空間を体験することができました。全く物音のしない世界。2万人以上の観光客が物音を立てず、しずしずとめぐっています。カメラのシャッター音だけが響く静寂の空間です。真っ暗な中に数千のろうそくがゆらめくライブな芸術を堪能しました。

春日大社参道の夜店の屋台も鳴り物ナシです。東京の祭りの喧噪に慣れている私には新鮮なまつりに映りました。同行した小学生の次男は「お兄ちゃん、箱の角に斜めから当ててひねり落とすんだよ。」という射的屋のオヤジのよくわからない、しゃがれ声の説明を楽しんでいましたし、家族旅行が奈良になったことに納得していなかった妻も感動をしてくれました。素晴らしい体験をさせていただきました。

緊急災害援助事業

2009年度の緊急災害支援として2団体に活動支援金の交付を実施しました。

1. 公的援助法実現ネットワーク 被災者支援センター 金額 500千円
高齢化が懸念される阪神淡路大震災後の被災住宅居住者の生活相談・支援と「居住福祉」の推進活動支援
2. 社団法人 龍野青年会議所 金額 1000千円
兵庫県西、北部災害復興支援事業の一環としての被災地保育園児童訪問コンサート 開催支援

会員の皆様へは

- 1 会員の活動および情報の全国への発信PR
- 2 まちづくり情報の提供
- 3 広報誌「まちtowns!」の定期購読
- 4 希望者は財団の活動への参加

お振り込み先

三井住友銀行麹町支店

普通預金0960483

財団法人まちづくり市民財団

郵便振替口座

口座記号番号 00100-7-446515

財団法人 まちづくり市民財団

郵便振替は手数料がかかりません。

入会金

特別会員（法人） 一口 10万円（年会費なし）

賛助会員（個人） 一口 1万円（年会費なし）

お問い合わせ先

財団法人まちづくり市民財団事務局

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3

TEL 03-3234-2607

FAX 03-3234-5770

まちづくり市民財団の活動をご理解いただき、
財団運営に対してご協力のほど
お願い申し上げます。

募集

ご入会・
ご寄付のお願い

まちづくり応援人

財団法人まちづくり市民財団の趣旨にご理解いただいた特別会員（法人）、賛助会員（個人）の募集、ならびにご寄付をお受けしております。
入会金・寄付金は、地域社会への貢献に役立たせていただきます。

まちtowns! Vol. 19

財団法人 まちづくり市民財団

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3 日本青年会議所会館内

TEL : 03-3234-2607

FAX : 03-3234-5770



財団法人 まちづくり市民財団

編集スタッフ

2009年度社団法人日本青年会議所

ローカリズム推進会議 メンバー一同

日本全国の元気な 「まちづくり人」を応援します！

まちづくり市民財団は、「市民がまちづくりを行いやすい環境づくり」と、「それに取り組む人たちの応援」をする財団です。私たちは「まちづくり人」を応援します。まちづくりに情熱を燃やし、それぞれの地域で想いを形にしていこうという人々を応援します。

「応援してほしいことは何か？」

「応援されることは何か？」

そのことを考えながら助成事業を展開してまいります。これまでの「事業に対する助成」という考え方から、「人や組織や運営に対する助成」、「複数年の助成や資金以外の応援」などをとおして、「日本に新しいまちづくりの風」をおこします。多くのご応募をお待ちしています。

(財)まちづくり市民財団
理事長 米谷 啓和

2010年度

「まちづくり人」 応援助成金応募の ご案内

私たちは、助成終了後も選出された皆様と、
ネットワークをつくり、
当財団のさまざまなプログラムを通して
連携し続けることで、
「新しいまちづくりの風」をおこし続けて
行きたいと考えています。

応募内容

1. 助成金

本年の助成金の総額は500万円です。
一件50万円限度とし、内容等選考の上、10件程度選出します。
※複数年連続で助成する場合もあります。

2. その他の応援

その他助成金以外に応援してほしい事柄の中から、応援されるものについて応援します。

応募対象

本年度のまちづくり人応援助成金は、A項目とB項目に大別しています。

A項目『地域の小さな循環をつなぐ仕組み創り』

B項目『各地域でのまちづくり活動』等の6分野の活動として募集いたします。

今年度の「まちづくり人応援助成金」の重点施策としては、社会や地域に必要とされる「地域の小さな循環をつなぐ仕組み創り」を中心とした活動等に対して応援いたします。

応募対象の記載については、A項目またはB項目の中から皆様の活動の中心となる項目を、1項目だけを選択して申請用紙にご記入下さい。

A : 小さな循環をつなぐ仕組み創り

B 1 : 環境活動：環境保全やエコ運動を推進する、まちづくり活動をする人を応援します。

B 2 : 啓蒙活動：NPOや組織づくりを通じて、まちづくり活動を提唱・実践する人を応援します。

B 3 : 交流活動：世代間交流を活発にする活動や運動等を通じて、まちづくり活動をする人を応援します。

B 4 : 活性化活動：地域の商工業を活性化する活動を通じて、まちづくり活動をする人を応援します。

B 5 : 文化活動：地域の歴史や文化、芸術活動の推進を通じてまちづくり活動をする人を応援します。

B 6 : 福祉活動：地域福祉の増進を図る活動を通じてまちづくり活動をする人を応援します。

注：A項目「地域の小さな循環をつなぐ仕組み創り」については、本誌理事長挨拶（3ページ）に具体的に掲載していますのでご覧ください。

応募手続き

1. 助成金応募申請書の送付

助成金応募申請書およびその他必要書類を、当財団ホームページよりダウンロードして記入作成、それを期間内に送付してください。申請書類の他、活動概要がわかる写真や資料を添付していただいても結構です。原則としてEメールで送信されたデジタル書類のみ受け付けます。(Zip圧縮後1MB程度。あまり重くならないようにご協力お願い致します。) デジタルの対応ができない団体については、まちづくり市民財団事務局に問い合わせをして確認を受けた後に、ダウンロードした書類に必要事項を記入し送付して下さい。

2. 書類提出先および問い合わせ先

財団法人まちづくり市民財団 事務局
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3

日本青年会議所内

TEL : 03-3234-2607 (平日午前9時30分～午後6時)

FAX : 03-3234-5770

3. 送付期間

2010年3月1日～3月31日(必着)

選考選出と助成金交付

1. 選考は一次書類選考選出後、締切日の翌々月に開催する選考委員会にて二次選考選出を行います。選考委員会にて選考選出された申請団体については原則として現地調査を行い最終選考とします。最終選考選出団体へは速やかに書面にて通知、助成金を交付します。

2. 助成金は申請団体の代表者に対して交付します。そしてその代表者には活動の内容・助成金の管理・報告書の提出等に責任を持っていただきます。

3. 助成金対象活動の実施期間は、2010年4月1日～2011年3月31日の間に実施される活動を基本とします。